

HIGASHIKABURA 4-SITE

# 東蕪 4 遺跡

中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2002. 3

長坂町教育委員会  
峡北地域振興局農務部

HIGASHIKABURA 4-SITE

# 東蕪4遺跡

中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2002. 3

長坂町教育委員会  
峡北地域振興局農務部

## 序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所に上る遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は平成12年度に中山間地域総合整備事業にともない発掘調査を実施した東燕4遺跡の調査報告書です。東燕4遺跡では縄文時代の住居跡、土坑、集石造構などが発見されました。発掘調査事例の少ない中丸地内において縄文集落の一部が調査されたことは、この地域の歴史を解明する上で貴重な報告となりました。

最後に、東燕4遺跡の調査にあたり、格別なご理解をいただいた中丸地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2002年3月

長坂町教育委員会  
教育長 瀬戸龍徳

## 例　　言

## 凡　　例

1. 本書は、2000（平成12）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町中丸字東薙地内に所在する東薙4遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、中山間地域総合整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北土地改良事務所（当時、現在は山梨県峡北地域振興局農務部）より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。
3. 本書の執筆は、第4章を池谷勝典（株式会社アルカ）、その他を小宮山隆（長坂町教育委員会学芸員）が行い、編集は小宮山が行った。
4. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関に委託した。

基準点測量	（㈱新生測量）
空中写真測量	（㈱シン技術コンサル）
石器分析同化	（㈱アルカ）
5. 遺構の写真撮影は小宮山が行い、遺物の撮影は村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）が行った。
6. 本報告書に関わる出土品および記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。
7. 発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。  
今福利恵（山梨県埋蔵文化財センター）、佐野隆（明野村埋蔵文化財センター）、閔問俊明（韮崎市教育委員会）

1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構 調査区全体図 :1/100

住居跡 :1/60

土坑 :1/30

遺物 純文土器 :1/3または1/4

石器・石錐・搔器・使用痕剥片・二次加工剥片・

両極石器・剥片・古錢 :2/3

磨製石斧・打製石斧・敲石等・石皿・石棒 :1/3

2. 遺構図版中の遺物分布図のマークは各図版中に示してある。

3. 遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

4. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

## 東燕4遺跡目次

小形石器①、小形石器②

剥片石器他、打製石斧

磨石・轍石、石皿

### 序

例言・凡例

本文目次

図版目次

表目次

写真図版目次

第1章 調査の経過と概要	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 発掘調査の概要	1
第3節 発掘調査組織	1
第2章 遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3節 基本層序	2
第3章 遺構と遺物	2
第4章 小形剥片石器	4
第5章 まとめ	6
参考文献	6

## 表 目 次

第1表 長坂町遺跡地名表	8
第2表 石器属性表	37
第3表 土器出土内訳	38
第4表 石器出土内訳	39

## 写真図版目次

図版1 調査区全景(南から)、I区①作業風景 I区②作業風景	
図版2 II区全景(東上から)、II区作業風景 1号住居物出土状況、1号住居跡	
図版3 1号集石①、1号集石②、1号集石③ 1号集石④、1号土坑、4号土坑・ピット2~5 7号土坑、8号土坑	
図版4 1号住居出土土器①、1号住居出土土器② 1号住居出土土器③、1号住居出土土器④ 1号住居出土土器⑤、1号集石出土土器 8号土坑出土土器、I区出土土器①	
図版5 I区出土土器②、II区出土土器	

## 図 版 目 次

第1図 長坂町遺跡分布図	7
第2図 東燕4遺跡周辺の遺跡分布図	9
第3図 東燕4遺跡周辺の地形・調査区配置図	10
第4図 調査区(I区)全体図	11
第5図 調査区(II区)全体図	12
第6図 調査区土層断面図	13
第7図 1号住居跡・8号土坑	14
第8図 1~7号土坑	15
第9図 出土土器①	16
第10図 出土土器②	17
第11図 出土土器③	18
第12図 出土土器④	19
第13図 出土土器⑤	20
第14図 出土土器⑥	21
第15図 出土石器①	22
第16図 出土石器②	23
第17図 出土石器③	24
第18図 出土石器④	25
第19図 1号住居跡遺物出土状況①	26
第20図 1号住居跡遺物出土状況②	27
第21図 1号住居跡遺物出土状況③	28
第22図 1号集石①	29
第23図 1号集石②	30
第24図 I区遺物出土状況①	31
第25図 I区遺物出土状況②	32
第26図 I区遺物出土状況③	33
第27図 I区遺物出土状況④	34
第28図 II区遺物出土状況	35
第29図 搗器(第15図5)の使用痕	36

## 第1章 調査の経過と概要

### 第1節 発掘調査に至る経過

山梨県北土地改良事務所（当時：以下、土地改良事務所）は、八ヶ岳南麓における農村環境基盤整備を目的とした中山間地域総合整備事業（以下、中山間事業）を推進しており、1999（平成11）年、長坂町に対し事業案を提示した。事業案では複数の埋蔵文化財包蔵地が含まれていることから、土地改良事務所と町産業課の事業サイドと県および町の教育委員会とで、これら埋蔵文化財の保護策について協議した。その結果、翌2000（平成12）年度に同町中丸字東薫地内に予定された同事業の農業集落道整備で包蔵地の破壊が予測された東薫4遺跡の発掘調査を町教委が同年度に実施することとなった。

2000（平成12）年4月に土地改良事務所から県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘の通知が提出されるとともに、土地改良事務所と長坂町との間に調査費に関する負担協定を締結し、同年9月に発掘調査を開始した。発掘調査は約4ヶ月を要し2001（平成13）年1月9日に県教育長あてに調査終了報告、長坂警察署長あてに埋蔵物発見届をそれぞれ提出した。整理作業は2001（平成13）年度実施し、年度末の2002（平成14）年3月をもって完了した。

### 第2節 発掘調査の概要

今回の調査においては、現集落道の拡幅工事が発掘調査の対象であるため、調査区は道路に沿った細長いものとなった。そのため農業集落道整備事業の工事面積は2,500m<sup>2</sup>におよぶが、発掘調査対象面積は175m<sup>2</sup>である。調査区に発掘調査・遺構測量の基準となる50cm間隔のグリッドを想定した細部杭を設定した。調査は雜木の株・根を避けながら表土を小型重機で除去したのち、人力で包蔵層を精査した。出土遺物は原位置のまま平板実測で記録し、必要に応じて写真撮影を行った。遺構は簡易造り方で手実測し、写真撮影を行った。全体図作成は微シン技術コンサルに委託し、空中撮影および図化を行った。

調査区は台地縁辺部（I区）と台地南西側谷部（II区）の2ヶ所からなるが、遺物が多く出土したのはI区であった。遺構は全てI区から発見され、縄文時代中期の竪穴住居跡1軒と集石遺構1基、土坑8基、ピット5基からなる。遺物は縄文時代早期末～前期初頭・中期・後期の土器、石器、中世の古銭などが出土している。

### 第3節 発掘調査組織

事業主体 長坂町教育委員会

事務局教育長 小松清寿（～平成12年9月）

瀬戸龍徳（平成12年10月～）

教育課長 三井茂

教育係長 小松武彦（～平成12年7月）

坂本美男（平成12年7月～）

社会教育係長 望月和大（平成13年4月～）

調査担当 小宮山隆

調査補助員 吉田光雄

発掘作業員 井手忠利子 井手俊郎 井出仁美

有野（旧姓大木）明子 大柴富子

清水三恵 清井ゆき枝 清井義雄

名取初子 畑 梅子 渡辺早月

整理作業員 井出仁美 有野（旧姓大木）明子

清井ゆき枝 橋本はるみ 日向登茂子

石川昭江 小林広美

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

東薫4遺跡の所在する北巨摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する。南北約18km、東西約6kmの南北に細長い町である。八ヶ岳の山体崩壊により起きた蘿崎火砕流によって形成された台地上にある。標高は北端の八ヶ岳現岳が最高点で2,786mを測り、南端はJR日野春駅の南側で約490mである。標高1,200m以上が急峻な山岳地帯だが、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南では、火砕流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称「七里岩」と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し、浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した灌漑用水や灌漑用溜池が数多く、県下でも有数の溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水稻耕作が行われ、古くから八ヶ岳南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

東薫4遺跡の所在する長坂町中丸地区は、JR中央線の西側で小瀬沢町や白州町に接する町の西部に位置し、標高はおおよそ750～800mである。中丸地区には東端に白井沢宮川、中央に大瀬沢川、やや西部に小瀬沢川の3つの河川が並行して南流している。それぞれの河川は台地を浸食し、大瀬沢川や小瀬沢川の下流部では比高50mほどの浸食崖が発達している。東薫4遺跡は小瀬沢川の右岸（西岸）台地上に立地する。遺跡の北東から東側に

は小深沢川の段丘崖が迫り、遺跡付近と小深沢川床の比高は25~30mである。この台地の東側は現在の東熊渕池付近の湧水を水源とする小深沢川支流により緩やかに浸食されている。遺跡付近の台地上（I区）とこの支流との比高は8~10mである。

## 第2節 歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の高い地域である。の中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに208ヶ所の遺跡が確認されている。東熊4遺跡が位置する中丸地区にも多くの遺跡が分布しているが、縄文時代あるいは平安時代の遺跡が特に目立つ。そのなかでも、東熊4遺跡からみて小深沢川の対岸（左岸）の台地上に立地する新宿区健康村遺跡では、東京都新宿区立区民健康村建設にともない約8万m<sup>2</sup>もの発掘調査が行われ、縄文時代前・中・晚期、平安時代、中世にわたる遺構と遺物が多数検出されている（新宿区民健康村遺跡調査団 1994『健康村遺跡』）。同じく大深沢川右岸には中世・戦国期の砦址と伝えられる天白砦址がある。やや東へ離れるが、大深沢川と白井沢宮川とにさまれた台地上には、これまでの調査で縄文時代早~後期の遺構と遺物が検出された越中久保遺跡や高松遺跡がある（北巨摩市町村文化財担当者会 1999~2000『八ヶ岳考古』平成11~12年度年報）。

## 第3節 基本層序

今回の調査区は、台地中央部のI区と台地縁辺斜面のII区とに分かれ、それぞれの立地条件により、基本層序が異なっている。

I区は台地中央部なので、比較的堆積が少ない。表土下約30cmで褐色土になり、この層が地山となり、それを掘り下げて遺構が構築されている。浅い所では約10cm下がった所で褐色土になる。遺物は主に表土直下の黒褐色土（I区2層）から出土している。

II区は台地縁辺斜面であるため、深い所になると約90cm下に地山の褐色土が確認でき、I区と比べると堆積が多い。その上層には人頭大の礫を多く含むII区8層があるが、遺物はその層とその直上の暗褐色土（II区7層）から出土しているので、台地上面から流されてきたものと考えられる。

## 第3章 遺構と遺物

### 1号住居跡

（位置） I区②の中央やや南寄りに位置する。

（重複） 8号土坑に切られる。

（形状） 調査区の関係上、一部しか調査できなかったので形状は不明である。おそらく円形を呈すると思われるが、検出した住居跡の壁は割と直線状である。

（床面） 硬化面は確認できなかった。

（施設） 炉は検出できず、調査区外にあると思われる。ピットが5基あり、一部周溝が確認できた。ピットのほとんどが約50cmの深さをもち、一部は柱穴と考えてよいであろう。

（遺物） 出土土器は第9~11図1~86である。各遺物の時期は、1~4は曾利Ⅰ式、5は曾利Ⅱ~Ⅲ式、6~8は曾利Ⅲ式、9~28は曾利Ⅳ式、29~36は曾利Ⅳ~V式、37~58は曾利V式、59~64は加曾利E系、65~69・78~86は中期後半、70~76は中期末、77は称名寺式である。以下、主な遺物の詳細を述べる。

11は体部が底部からほぼ直線状に広がる曾利Ⅳ式である。口縁部直下に1条の横位沈線を施し、その下に逆U字状と波状の沈線を4単位に縱位に施している。地文は櫛歯状工具で綾杉状に施文しているが、頗るはかなり緩やかである。施文順序は地文→沈線である。

12は曾利Ⅳ式であり、11と同じく体部が底部からほぼ直線状に広がる器形である。口縁部直下に1条の横位沈線を、その下に逆U字状の沈線を施している。逆U字状沈線の内側は櫛歯状工具による綾杉状の地文であるが、施文順序は地文→沈線である。9・13・19・21は同一個体と考えられる。

51は曾利V式である。口縁部に2条の弧状沈線を施し、その間から下に逆U字状とその内側に1条の沈線を縱位に施文している。地文は櫛歯状工具によるハの字文である。口縁部の弧線と逆U字状沈線が出発する所がわずかに盛り上がり、かすかに波状口縁になっている。

63は、口縁部が内湾する加曾利E系である。地文に繩文を施した後、2条の逆U字状沈線を施している。2条の沈線の間に地文の繩文を磨り消している。逆U字状沈線は6単位で割り付けられていると思われる。

64は口縁部が内湾する加曾利E系である。口縁部にやや幅広い2条の横位沈線を施した後、沈線の上に、先端の丸い工具で刺突している。その下は繩文地文である。70はミニチュア土器である。口縁部に片口のような窪みを付け、その両側を盛り上げている。窪みの下も底部にかけ盛り上がっており、その両側に沈線を施している。口縁部には細長い楕円形を横位に施している。

石器については第2・4表を参照されたい。

（遺物出土状況） 第19~21図。石器は、一部が床面近くから出土しているが、ほとんど覆土中層から上層にかけ

て出土している。土器も曾利式、中でも曾利IV～V式を中心に出土しているが、曾利II～V式まで覆土中層から上層にかけて出土しており、型式による層位的な出土は見られない。

出土状況を見ると、住居跡廃絶時に埋没したと考えられる遺物はほとんどなく、住居が埋没した後の窪地になつたところに廃棄されたと考えられる。

11は住居跡南寄りから横倒しになり上から押しつぶされた状態で出土した(第7図)。破片の一部は8号土坑から出土し接合した。出土層位は覆土上層であり、住居跡にはともなわない。

(時期) 出土している遺物のほとんどが曾利IV～V式ではあるが、覆土の中層から上層にかけて出土している状況なので、住居跡の使用時期は曾利IV～V式以前である。中層には少量ながら曾利II～III式の破片も出土しているので、住居跡の使用時期は新しくても曾利I式であると考えられる。今までの長坂町内の調査事例から経験的に判断すると、住居跡の掘り込みの深さやピットのあり方をみると、縄文中期中葉の住居跡に類似すると思われる。よって、床面直上の出土遺物がないのではっきりとは断定できないが、今のところこの1号住居跡の時期は中期中葉～曾利I式としておきたい。

#### 1号土坑

(位置) I区①の北寄りで1号集石の北側に位置する。

(重複) なし。(形状) 長軸110cm×短軸74cm×深さ57cmである。楕円形で、底部中央がさらに深くなっている。

(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 2号土坑

(位置) I区①の北寄りで1号集石の南側に位置する。

(重複) ピット1と接する。(形状) 長軸124cm×短軸89cm×深さ38cmである。楕円形で、底部中央にピットがある。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 3号土坑

(位置) I区①の中央、2号土坑の南側に位置する。(重複) なし。(形状) 長軸72cm×短軸60cm×深さ23cmである。不整な楕円形を呈する。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 4号土坑

(位置) I区①の中央、3号土坑の南側に位置する。(重複) ピット3～5と重なる。(形状) 長軸70cm×短軸68cm×深さ23cmである。不整な円形をしている。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 5号土坑

(位置) I区①の南寄り、6号土坑の北西側に位置する。

(重複) なし。(形状) 長軸69cm×検出短軸53cm×深さ38

cmである。不整な楕円形をしている。底部中央にピットがある。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 6号土坑

(位置) I区①の南寄り、5号土坑の南東側にある。(重複) なし。(形状) 長軸94cm×短軸91cm×深さ27cmで、円形である。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 7号土坑

(位置) I区③北側に位置する。(重複) なし。(形状) 長軸90cm×短軸82cm×深さ36cmである。不整な楕円形をしている。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### 8号土坑

(位置) I区②の中央やや南寄りに位置する。(重複) 1号住居跡を切る。(形状) 検出長軸34cm×検出短軸49cm×深さ72cmである。一部調査区外に広がるため形状は不明であるが、おそらく楕円形であろう。(遺物) 第11号95～98、95は曾利II式、96・97は曾利V式、98は中期後半である。曾利後半の土器を中心に出土している。東隅から礫が数点出土し、その周辺から1号住11と接合する土器片が出土している。(時期) 出土した土器が小片で流れ込みの可能性もあるので断定はできないが、曾利IV～V式期と考えられる。(備考) 最下層に草木類と思われる炭化物を多量に含む黒色土が堆積していた。底部には焼土が確認できなかったので、その場では燃やされなかっただけではないかと思われる。あるいは焼土が形成されないぐらいの小規模な燃やされ方であったかであろう。その直上層は表面が崩れ堆積した層と考えられ、炭化物が堆積した後、一定期間野ざらしになっていた可能性がある。

#### ピット1

(位置) I区①の北寄りで2号土坑の南側に位置する。

(重複) 2号土坑と接する。(形状) 長軸51cm×短軸45cm×深さ42cmである。不整な円形をしている。(遺物) なし。(時期) 不明。

#### ピット2

(位置) I区①の中央、4号土坑の東側に位置する。(重複) ピット3と接する。(形状) 長軸75cm×短軸48cm×深さ42cmである。不整な楕円形で、底部にピットが4基ある。(遺物) 縄文中期と思われる土器が出土している。(時期) 縄文中期の可能性がある。

#### ピット3

(位置) I区①の中央、4号土坑の東側にある。(重複) 4号土坑・ピット4と重なり、ピット2と接する。(形状) 長軸35cm×短軸28cm×深さ15cmである。不整な円形をしている。(遺物) なし。(時期) 不明。

## ピット4

(位置) I区①の中央、4号土坑の南東側に位置する。

(重複) 4号土坑・ピット3と重なる。(形状) 長軸52cm

×短軸75cm×深さ25cmである。不整な円形をしている。

(遺物) 繩文中期後半の土器が出土している。(時期) 繩文中期後半の可能性がある。

## ピット5

(位置) I区①の中央、4号土坑の西側にある。(重複)

4号土坑と重なる。(形状) 長軸45cm×短軸45cm×深さ24cmで、不整な円形である。(遺物) なし。(時期) 不明。

## 1号集石

(位置) I区①の北寄りに位置する。(重複) なし。

(形状) 遺構を検出した段階では、約10~20cmの大さの小砾が不整な格円形のように置かれており、それらを取り除くと約30~40cmの大砾が長方形に並べられていた。長方形の長軸は130cm、短軸は65cmである。(遺物) 出土土器は第11回87~94である。87は曾利IV式、88~91は曾利V式、92~93は加曾利E系、94は中期後半の土器である。1号集石から出土した土器は31点であり、主として曾利IV~V式が多い。

石器については第2~4表を参照されたい。打製石斧・磨石類・石皿が砾と交ざって出土しているが、黒曜石は剥片も含めて出土していない。(遺物出土状況) 土器は砾の間から出土している。第17回53の打製石斧は真ん中で接合しているが、その両方が1号集石に他の砾と一緒に置かれていた。(時期) 出土遺物から曾利V式期と考えられる。

## I・II区出土土器

99~255まではI区から出土し、99~100は五領ヶ台式、101は猪沢式、102~103は中期中業~後業の土器、104は東海系と思われる土器、105~110は曾利II~III式、111~114は曾利III式、115~117は曾利III~IV式、118~127は曾利IV式、128~134は曾利IV~V式、135~186は曾利V式、187~189は曾利式、190~203は加曾利E3~4式、204~210は加曾利E4式、211~219は中期後半の土器、220~229は中期末の土器、230~237・242~255は中期の土器、238は称名寺式、239~241は後期である。

256~270はII区から出土し、256は早期末~前期初頭の繩垂土器、257は曾利IV式、258~259は曾利V式、260~263は加曾利E3~4式、264は加曾利E4式、265~268は中期後半、269は中期の土器の底部片である。270は北宋錢「嘉祐元寶」(初鑄年1056年)である。

## 第4章 小形剥片石器

### はじめに

東薫4遺跡の小形剥片石器について、整理・分析作業を行った。本遺跡から出土した小形剥片石器は242点である。その中から38点を資料体として選抜し実測図、属性表、図版を作成した。図版の組み方は、石器の時期がほぼ限定できる資料であることから器種ごとに組んで、石器組成が一覧できるようにした。

石器の説明は、概要で石器の数量と内訳、特徴などを記した。また必要に応じて項目をさいて属性の説明を行った。

### 石材

小形剥片石器の石材は、1点の珪岩以外はすべて黒曜石である。これらの石材名称の区分は、岩石学的な区分であり、石器の材料の選択性と原産地に関係する属性として有効である。

### 剥離技術

#### 押圧剥離の様相

本遺跡のなかで押圧剥離が認められた石器は、わずかに5点である。それらは、石錐、石錐、搔器である。これらの石器は、押圧剥離の技術(加工技術)を記述することが最も効果的である。

ハンマーの種類はハードハンマーとソフトハンマーである。両者の違いは、石器よりも硬く変形しないのがハードハンマー、石器に当たって変形し、ショックを吸収するのがソフトハンマーである。

ハンマーの性質の違いは石器(主に石錐のような小形剥片石器)の表面に以下のように現れる。

	打点	バルブ	稜線	剥離の伸び
ハード ハンマー	明瞭な コーン	発達	切り立つ	器体縁辺が多い
ソフト ハンマー	聞いた コーン	未発達	平滑	器体中央を越える

以上の表で本遺跡の加工の剥離技術を検討した結果、以下のような加工技術が認められた。

#### ハードハンマーの押圧剥離(HP)の技術

コーンが明瞭でバルブが発達する深い剥離面。打点付近の稜線が立ち尽端に階段状剥離もみられる。工具は、径が1mmから1.5mm程度のハードハンマー。剥離面幅が

3 mm程度、剥離面は5 mm程度に伸びる。急角度による周縁加工と平坦剥離による面加工がある。

#### ソフトハンマーの押圧剥離（SP）の技術

コーンが不明瞭でバルブはやや発達から未発達。工具の径は1 mm～1.5 mm程度なので剥離角の程度の差でバルブの発達は決まる。ハンマー自体がしなるようなソフトハンマーと推定できる。浅い剥離面であるが後線は比較的明瞭である。剥離面の幅3 mm、長さ4 mm程度。

#### その他の剥離技術

押圧剥離技術の他に、ハードハンマーの直接打撃（HD）とハードハンマーの垂直打撃（HvD）がある。HDはコーンが大きく明瞭で、バルブが発達し、押圧剥離とは全く異なることがわかる剥離である。HvDはハンマーを石器に対して垂直方向から打撃し、圧縮の力で一気に剥離する技術である。剥離面の特徴は、バルブが発達せず、打点部分のくだけが目立ち、リングが波打つという点があげられる。

#### 石器の概要（第15回）

上記の剥離技術の所見に基づき、器種ごとに石器の説明を行う。

《石錐》 石錐は、2点（1、2）出土している。剥離技術は、SPである。石材は、黒曜石と珪岩である。2点ともに凹基盤である。

《石錐》 石錐は、2点（3、4）出土している。剥離技術は、HPである。石材は、黒曜石である。4は主要剥離面側をHPで平らに整形し、背面側を急角度の剥離で整形する。断面形は、三角形になる。3は、HDで剥離された縦長剥片の末端辺の角をHPで刃部に整形している。刃部には使用による微細剥離が認められる。

《掻器》 掻器は、1点（5）のみの出土である。剥離技術は、HPである。石材は、黒曜石である。素材は、HDで剥離された小形の貝殻状剥片である。背面側の周縁部は、細かな剥離で覆われており、剥離面の様相はSPであるがそれらの剥離面は幅がまちまちで一定性がないこと、打点付近に微細剥離が顕著であることから使用痕剥離であると考えられる（第29図）。加工と考えられる剥離面が見られる部分は、右側辺の上部である。

《二次加工剥片》 この器種は、成形加工に折取りが認められる石器であり、2点（6、7）出土している。6は、HvDで剥離された剥片を背面側から打撃を加え半裁している。何らかの石器の未成品と考えられる。7は、HDで剥離された剥片の末端部を主要剥離面側から打撃

を加えて比較的平坦な折れ面を形成している。その折れ面には、微細な剥離がわずかに認められる。

《両極石器》 この器種は、両極打撃によって定義される石器である。本遺跡では、HDで剥離された剥片に両極打撃を行っている石器（8、9、10、11）と初めから両極打撃を行っている石器（12）がある。前者を両極石器1とし、後者を両極石器2とする。両極石器1は、剥片を素材として芯材の厚みを取るために両極打撃の技術を用いている。このような小形で薄い剥片を成形することから、石錐の未成品であると考えられる。両極石器2は、石器そのものが両極打撃で作出されている。両極石器1と2では、両極打撃の技術を用いる意味が全く違うことに注意が必要である。

《使用痕剥片》 本遺跡を特徴づける石器である。23点（13～25）出土している。素材は、HvDで剥離された剥片とHDで剥離された剥片である。石器の特徴は、二次加工は行わず剥片の鋭い刃を刃部として使用している石器である。刃部には、使用による微細剥離が認められる。用いられる剥片の特徴は、長さ・幅が3 cm未満で厚みが5～8 mm程度のものが主体をしめ、背面側に原際面を残しているものが多いということである。これは、剥がされた石核の大きさに起因するものである。

《石核》 石核は、1号住居跡から出土した1点（41）のみである。小形の原石の平坦面を打面としてHDで貝殻状の剥片が剥離されている。

《原石》 原石は、1号住居跡から出土した2点（39、40）のみである。特徴は、角縁であることと大きさが似ていることである。大きさは、長さ・幅が5 cm未満で厚みが3 cm未満の範囲におさまる程度である。上記で述べてきた剥片石器の素材の特徴をみても、この程度の大きさの原石が遺跡に持ち込まれて消費されていたと考えられる。

#### まとめ

本遺跡の小形剥片石器の特徴は、黒曜石の小形の角縁を用いたHDあるいはHvDで剥離し、剥がされた剥片は鋭い線刃を刃部として使用する使用痕剥片が多く、一部が石錐や石錐の素材として用いられるということである。石錐やドリルなどの定形石器には、押圧剥離が用いられ、石錐はSP、ドリルはHPを用いるという特徴がある。本遺跡の小形剥片石器の製作構造は、次頁の図にまとめることができる。

今後の課題としては、本遺跡を特徴づける黒曜石の使用痕剥片がどのような対象物にどのような使われ方をしていったのか明らかにしていく必要があると考えられる。

さらに、これまで見逃されてきたであろうこれらの使



用痕剥片について、周辺地域、同時期の遺跡の石器組成を再検討していかなければいけない。

#### 参考文献

- 角張淳一 2000「縄・石器研究についての感想」『東京考古』18 東京考古談話会  
竹岡俊樹 1989『石器研究法』言文社

## 第5章 まとめ

今回の調査は175m<sup>2</sup>と調査面積は少なもの、繩文時代中期の住居跡1軒・中期後半の集石1基、土坑8基、ピット5基が発見された。発掘調査の少ない中丸地区での貴重な調査事例となった。

ここでは、調査区全体の出土状況を検討し、まとめとしたい。

I区の遺物出土状況 I区は①~③の3地区に分けられるが、①が台地平坦面の縁辺部にあたり、②・③にかけて南斜面を下っていく。標高の高いI区①・②にかけて遺物が集中し、I区③の南端部からはほとんど出土していない。繩文時代の集落は台地平坦面にあることが多く、①・②に遺物が多く出土することは当然といえる。③は集落のはずれにあたるため遺物が少なく、それらも平坦面から流れてきたものと思われる。③の北側に7号土坑があるが、もしかするとそれが集落の南端とも考えられるほど、③の南端には遺構も遺物も少ない。

I区の出土土器は中期後半が多いが、中でも曾利IV～V式が多く、1号住の出土土器と同じ傾向を示している。1号住の上層はI区包含層へと統くため同じ内容になるが、中層も同じような内容である。おそらく曾利IV～V式期では、1号住が埋まり窪地と化していく、そこやその周辺に土器を廃棄したのであろう。

数多く出土している曾利式でも、細かく見ると微妙に出土状況が異なっている。曾利II～III式では、①・②から出土し、特に②の1号住の北側に多く出土している。

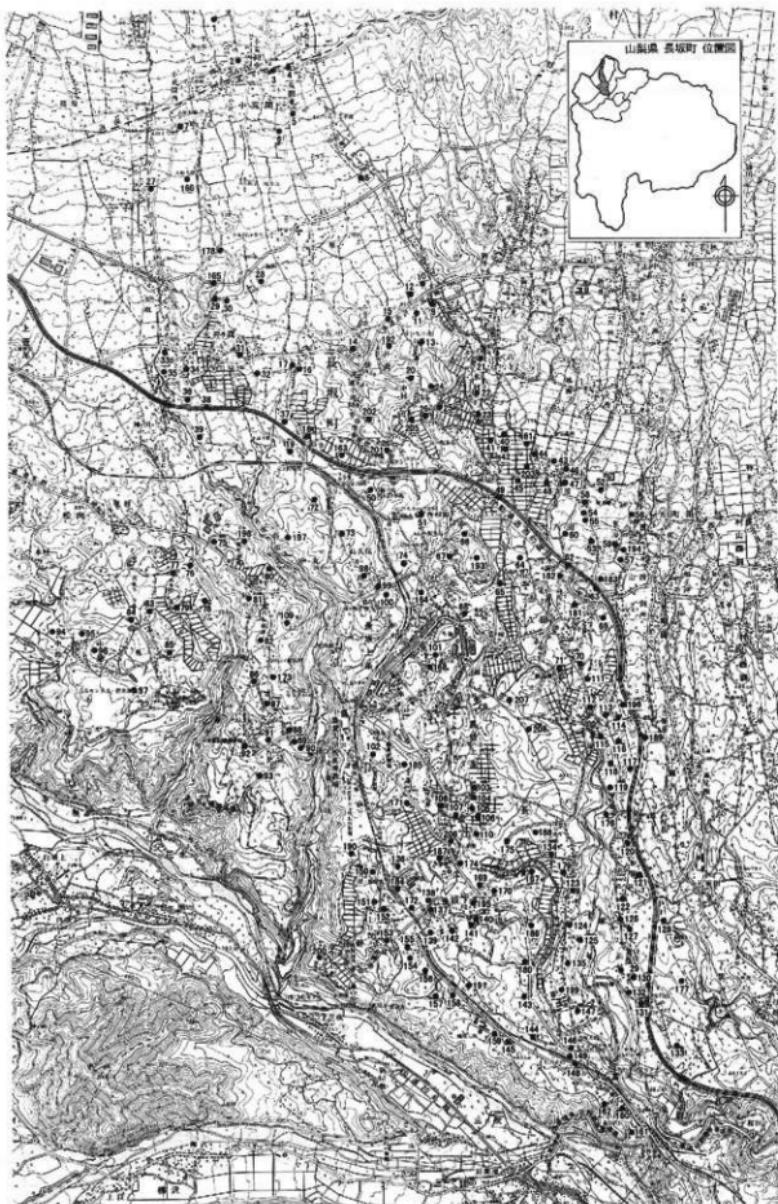
曾利IV式でも同じような傾向であるが、③にまで分布を伸ばしている。曾利V式となると③により広範囲に分布している。加曾利E系や中期末の土器は③にわずかに広がるだけで、時期ごとに見ると曾利IV～V式が最も広く広がっている。この時期に調査区周辺で生活をしていたのであろう。1号住は曾利I式以前のものであるので、曾利IV～V式の住居跡は確認されなかったが、調査区外に展開していることは間違いない。

**II区の遺物出土状況** II区は台地南西側にある谷部であり、曾利V式を中心に出土しているが、おそらく地形的に見て台地平坦面からの流れ込みであろう。黒曜石片は比較的まとまって出土しているが、土器は散漫な状況を示している。

また、1点だけではあるが、前期初頭の縦維土器が出土している。他の土器と同様に流れ込みと考えられるが、台地平坦面にその時期の生活痕跡が残っていることを示す遺物である。八ヶ岳南麓において該期の土器の出土が少ないだけに貴重な発見となった。

#### 参考文献

- 新宿区民健康村遺跡調査団 1994『健康村遺跡』  
小宮山隆・山下大輔 1999「高松遺跡」「八ヶ岳考古」平成10年度年報 北巨摩市町村文化財担当者会  
小宮山隆 2000「越中久保遺跡」「八ヶ岳考古」平成11年度年報 北巨摩市町村文化財担当者会  
知多古文化研究会編 1997『愛知県南知多町の考古資料』



第1図 長坂町遺跡分布図

第1表 長坂町遺跡地名表

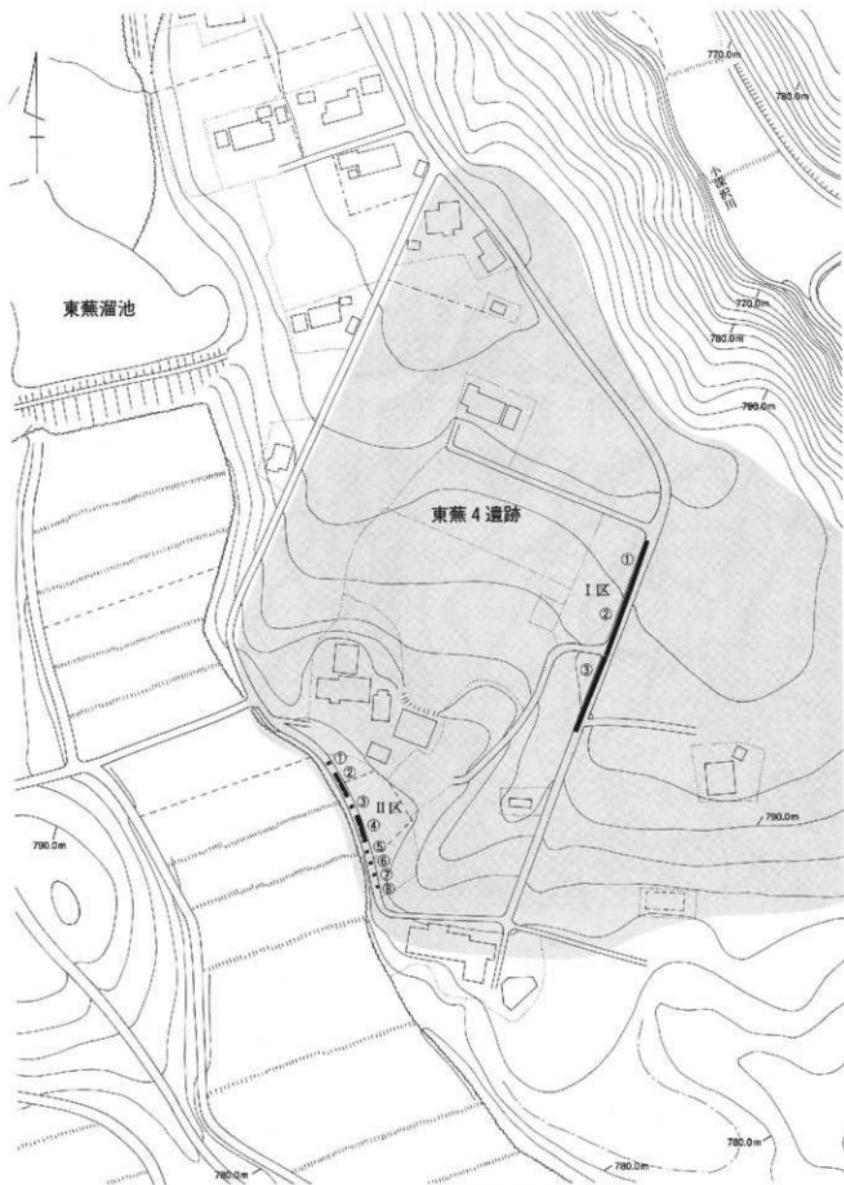
(旧石=旧石器時代 繩=縄文時代 弓=弥生時代 占=古墳時代 奈=奈良時代 平=平安時代 中=中世 戰國=戦国時代 江戸=江戸時代)

001	耳塚		071	塚原遺跡	繩	141	相吉遺跡	奈 平
002	辻性寺前遺跡	繩 中	072	越中久保遺跡	繩 平 中 江戸	142	植松氏屋敷址	中
003	信玄宮遺跡	繩	073	久保道路	繩	143	下屋敷遺跡	繩
004	小堀間古戦場跡	戦国	074	房屋敷遺跡	繩 江戸	144	清水頭遺跡	繩 古 兼 平
005	桜倒遺跡	平 江戸	075	池ノ平遺跡	繩 平	145	向原遺跡	平
006	小兒遺跡	江戸	076	東薙 3 遺跡	繩 平	146	二ツ墓古墳 2	古
007	青間遺跡	繩	077	東薙 2 遺跡	繩 平	147	農業高校前遺跡	繩
008	桜山南遺跡	繩	★078	東薙 4 遺跡	繩 平	148	三ツ墓古墳 3	古
009	新屋敷東遺跡	繩	079	東薙 1 遺跡	繩 平	149	三ツ墓古墳 1	古
010	花原敷北遺跡	繩	080	和手山東遺跡	中	150	池ノ平昭和堤北遺跡	繩 兼 平
011	薪居敷遺跡	繩	081	小尾平遺跡	臼石 繩 中	151	池ノ平 A 遺跡	繩 兼 平
012	牛久保遺跡	繩 弐	082	簡の原遺跡	繩 平	152	向井丹土屋敷址	中
013	牛久保南遺跡	繩	083	西蕪古道跡	繩 平	153	池ノ平 B 遺跡	繩 江戸
014	沢入遺跡	青沼氏前趾	084	西蕪遺跡	繩 平	154	上日野遺跡	繩 江戸
015	千平干遺跡	繩	085	西蕪南遺跡	繩 平	155	田中氏原敷址	中 平
016	東下原敷遺跡	繩	086	和手置跡	繩 平	156	上日野 A 遺跡	繩 平
017	西下原敷遺跡	繩	087	腰妻遺跡	繩 平	157	上日野 B 遺跡	繩 平
018	新田森遺跡	繩 中	088	城山ノ北遺跡	繩 平 中 江戸	158	上日野 C 遺跡	繩 平
019	西下原森南遺跡	繩	089	城山山東遺跡	繩 中	159	蛇久保遺跡	古 江戸
020	横手遺跡	繩 中	090	中丸蛭井	戰国	160	日野原遺跡	中 江戸
021	猪之原遺跡	繩	091	久保久保遺跡	繩 平	161	上日野原遺跡	繩 平 中 江戸
022	星敷附遺跡	繩 中	092	清春奉春美術館南遺跡	繩	162	富岡遺跡	江戸
023	今道遺跡	繩	093	細久保遺跡	繩	163	横針・中山遺跡	中
024	十郎林遺跡	繩 中	094	後平遺跡	繩 平	164	大木遺跡	繩 平
025	阿原遺跡	平	095	狐平北遺跡	繩 平	165	中込遺跡	繩
026	中尾根遺跡	繩	096	狐平道路	繩 平	166	手白尾東遺跡	古
027	手白尾遺跡	繩	097	大平道路	繩 平	167	西壓敷遺跡	古
028	火燒岩遺跡	繩	098	下鳥久保遺跡	繩	168	上町南遺跡	繩 弐 古 平 中 近代
029	横山 1 遺跡	繩	099	鳥久保遺跡	繩 江戸	169	龍角西遺跡	繩 弐 古 平 中
030	横山 2 遺跡	繩	100	高松遺跡	繩	170	龍角遺跡	繩 弐 古 平
031	雄山平山遺跡	繩	101	上町遺跡	繩 奈	171	長坂上条遺跡	繩 弐 古 平
032	葛原北遺跡	繩	102	酒呑馬遺跡	繩 占 平 江戸	172	西久保遺跡	繩 弐 平
033	上フノリ平北遺跡	繩	103	東丸古遺跡	繩 占 平 中 江戸	173	新宿区健康村遺跡	繩 平 中 江戸
034	上フノリ平道跡	繩	104	東丸 B 道跡	古 平 中 江戸	174	長坂下条・藤塚	繩
035	上フノリ平西遺跡	繩	105	中村道跡	占 平 中 江戸	175	和田遺跡	旁 古
036	下フノリ平北遺跡	繩	106	鍋田道跡	古 平	176	古屋敷遺跡	繩
037	信原遺跡	繩 弐	107	西村道跡	古 半 中 江戸	177	泥里遺跡	繩
038	下フノリ平直道跡	繩 半	108	中反遺跡	繩 半	178	中込北遺跡	繩
039	下フノリ平南遺跡	繩 半	109	柿平・舞塚		179	洪沢・上町遺跡	繩
040	別当道跡	繩	110	長坂山氏屋敷址	古 平 中	180	下屋敷北遺跡	繩 平
041	別当西遺跡	繩	111	白山神社前遺跡	繩 平	181	柳坪南遺跡	平
042	別当十三塚	中	112	上ノ屋敷遺跡	繩 平 中 江戸	182	柳坪北遺跡	繩 弐 平 中
043	南新居北遺跡	繩 平 中	113	大々神十三塚	中	183	境原遺跡	繩 弐 平
044	深草鉢跡	戰国	114	大々神 A 遺跡	半 平	184	北村北遺跡	繩 平
045	小和田遺跡	繩 半 中	115	大々神 B 遺跡	古 平	185	酒呑場東遺跡	繩 弐 平
046	南新居阪敷址	半 中	116	治郎部田遺跡	古 平	186	山本遺跡	繩
047	南新居遺跡	半	117	頭無 A 遺跡	古 平	187	北村東遺跡	繩 古
048	南新居西遺跡	平	118	櫻木道跡	弥 古	188	人久保遺跡	繩 中
049	小和田鉢跡	平 戰国 江戸	119	塚川・傳厚寺遺跡	繩 江戸	189	天王塚古墳	古
050	米山遺跡	繩 弐	120	頭無遺跡	繩	190	池之平北遺跡	繩 平
051	米山東遺跡	繩	121	新田遺跡	繩	191	清水頭北遺跡	繩 平
052	塚田遺跡	古 平	122	城之越遺跡	繩 平	192	宇平の土塁	
053	豊田遺跡	繩 古 平	123	原町北遺跡	古 平	193	成岡・藤塚	
054	豊右衛門塚 1	古 ?	124	原町遺跡	江戸	194	馬場遺跡	中
055	豊右衛門塚 2	古 ?	125	上久交通北遺跡	繩 戰 国	195	御屋遺跡	繩 半 中
056	浜田北遺跡	平	126	塚川の土壘	中 戰 国	196	治郎部田北遺跡	半
057	浜田遺跡	繩 弐 平 中	127	下村遺跡	繩 平 中	197	竹原遺跡	繩 中 江戸
058	東原の十塚	中	128	塚川 1・3塚群	中	198	天白骨塚	中 戰 国
059	東原遺跡	中	129	宮久保遺跡	繩 平	199	下原遺跡	中 戰 国
060	御新居遺跡	繩 古 平	130	下村南遺跡	繩 平	200	下日野遺跡	繩
061	原田遺跡	繩 平	131	泥里西遺跡	繩 平	201	横針・前久保遺跡	旧石 繩
062	御坪 A 遺跡	繩 弐 占 平	132	勝見遺跡	繩 平	202	横針・宮久保遺跡	繩 平
063	御坪 B 遺跡	繩 弐 古 平	133	競馬場遺跡	繩 平	203	深草遺跡	平
064	小屋敷直道路	中	134	寺前遺跡	繩 平 中	204	上の塙遺跡	戦国 江戸
065	久保地直道路	繩	135	久上通遺跡	繩	205	中田遺跡	繩
066	成岡道跡	繩 弐 平 中	136	反田遺跡	繩 平 中	206	長板下条・藤塚遺跡	古 平
067	成岡新田遺跡	繩 弐 平 中	137	三井洋敷址	中 江戸	207	池之原遺跡	繩 平
068	鹿田遺跡	繩 平	138	北村遺跡	繩 古 平	208	段道遺跡	繩
069	石原田北遺跡	繩 平 中	139	新屋敷遺跡	繩 平 中			
070	石原田南遺跡	繩 平	140	相吉氏屋敷址	中			

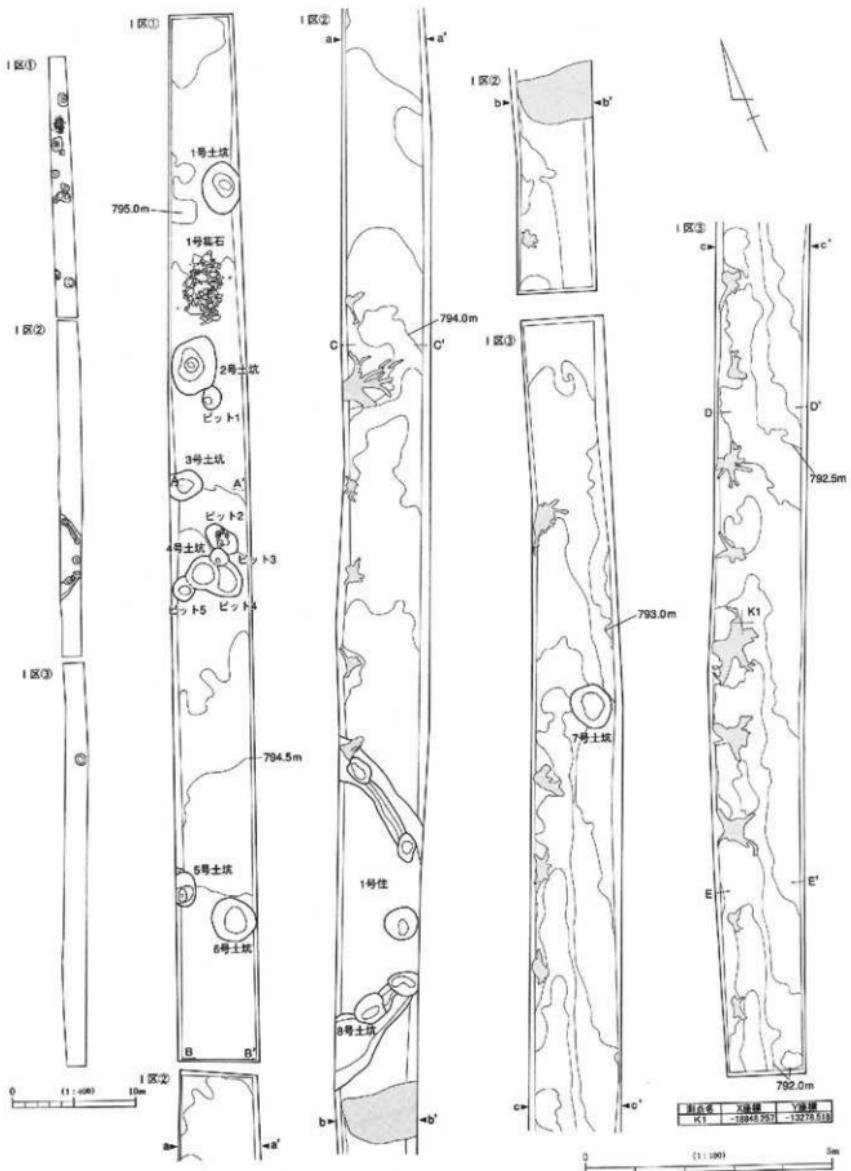


- |                       |               |                       |
|-----------------------|---------------|-----------------------|
| 075 池ノ平遺跡 縄           | 082 間の原遺跡 縄   | 109 柿平・蘿塚             |
| 076 東薺3遺跡 平           | 083 西薺東遺跡 平   | 173 新宿区健康村遺跡 縄 平 中 江戸 |
| 077 東薺2遺跡 縄 平         | 084 西薺遺跡 縄    | 197 竹原遺跡 縄 中 江戸       |
| <b>●078 東薺4遺跡 縄 平</b> | 085 西薺南遺跡 縄 平 | 198 天白砦址 中 戦国         |
| 079 東薺1遺跡 縄 平         | 086 和手遺跡 縄 平  |                       |
| 080 和手山東遺跡 中          | 087 腰巻遺跡 縄    |                       |
| 081 小尾平遺跡 旧石 縄 平      | 088 大平遺跡 縄 平  |                       |

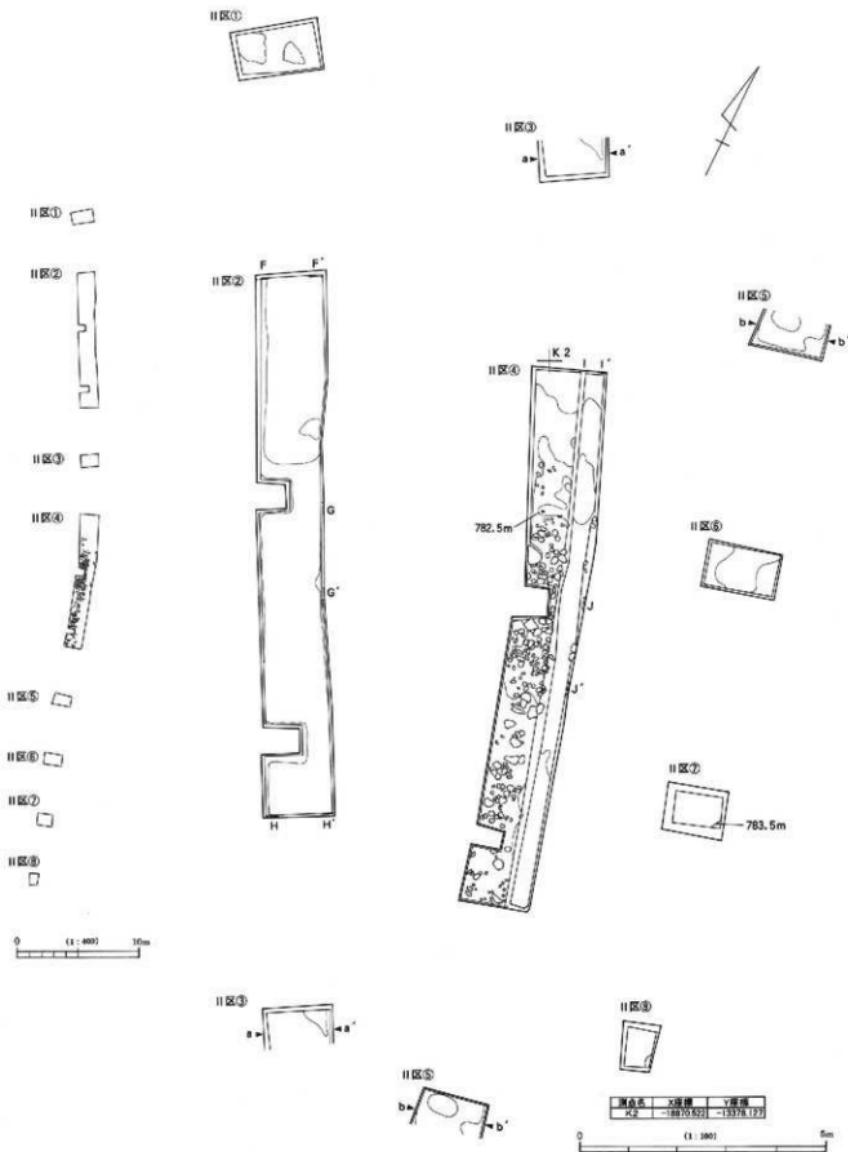
第2図 東薺4遺跡周辺の遺跡分布図 (1/10,000)



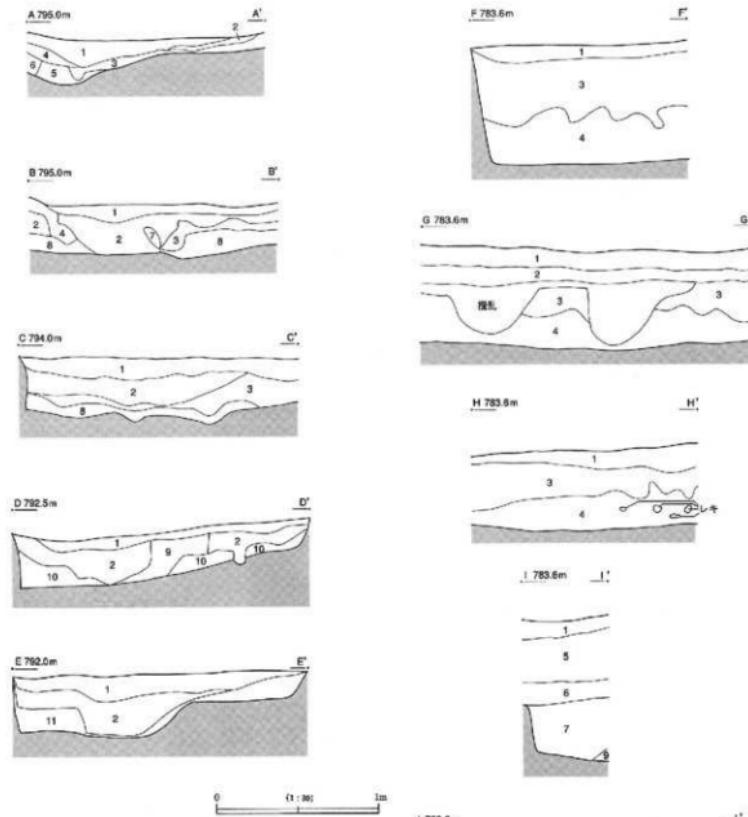
第3図 東燕4遺跡周辺の地形・調査区配置図 (1/2,000)



第4図 調査区（I区）全体図



第5図 調査区（II区）全体図



I区土壤剖面

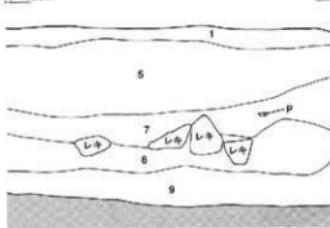
- SP. A  
 1. 黄褐色 SYR2/1 粒子不規則 しまりなし 肥土  
 2. 黑褐色 SYR2/2 粒子規則 しまりなし  
 3. 黑褐色 7SYR2/2 粒子規則 しまりなし ロームブロック少量含む  
 4. 黑褐色 SYR3/2 粒子規則 しまりあり  
 5. 黑褐色 SYR3/1 粒子規則 しまりなし ローム粒子を多く含む(3号土法浸透試験)  
 6. 黑褐色 2SYR3/1 粒子規則 しまりなし

- SP. B  
 1. 黑褐色 SYR2/1 粒子不規則 しまりなし 肥土  
 2. 黑褐色 SYR2/2 粒子規則 しまりなし  
 3. 黑褐色 7SYR2/2 粒子規則 しまりなし ロームブロック少量含む  
 4. 黑褐色 7SYR4/4 ロームブロック  
 5. 黑色 7SYR4/3 粒子規則 しまりなし ローム粒子を多く含む

- SP. C  
 1. 黑褐色 SYR2/1 粒子不規則 しまりなし 肥土  
 2. 黑褐色 SYR2/2 粒子規則 しまりなし  
 3. 黑褐色 7SYR2/2 粒子規則 しまりなし ロームブロック少量含む  
 4. 黑褐色 7SYR3/2 粒子規則 しまりなし

- SP. D  
 1. 黑褐色 SYR2/1 粒子不規則 しまりなし 肥土  
 2. 黑褐色 SYR2/2 粒子規則 しまりなし  
 3. 黑褐色 SYR3/2 粒子規則 しまりなし ロームブロックを多く含む  
 SP. E  
 1. 黄褐色 SYR2/1 粒子不規則 しまりなし 肥土  
 2. 黑褐色 SYR2/2 粒子規則 しまりなし  
 3. 黑褐色 7SYR2/2 粒子規則 しまりあり ロームブロックを多く含む

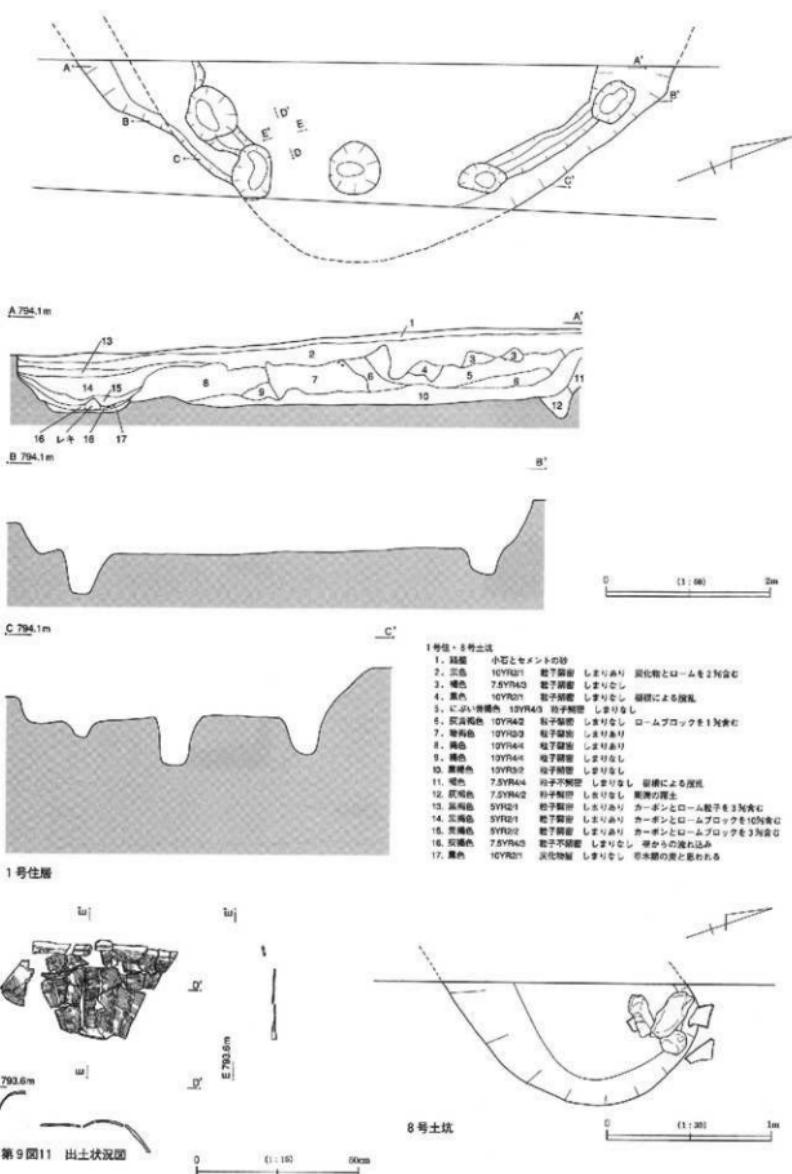
J区土壤剖面



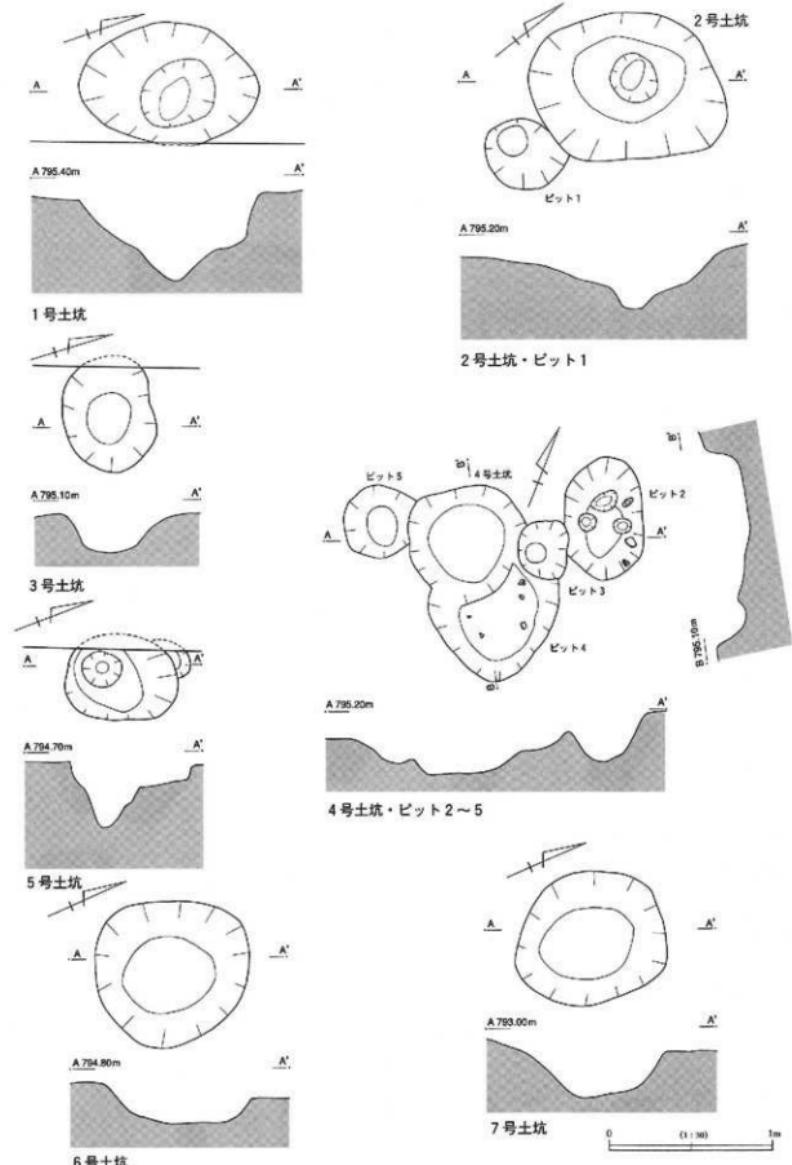
II区土壤剖面

- SP. F G H  
 1. 黑褐色 7SYR3/1 粒子不規則 しまりなし 肥土 滅作土  
 2. 黑褐色 7SYR3/2 粒子不規則 しまりなし 過去耕作地か?  
 3. 黄褐色 10SYR3/2 粒子規則 しまりなし 肥土とローム粒子を多く含む  
 4. 黄褐色 10SYR3/4 粒子規則 しまりなし 大人の脚あり 肥土層
- SP. I J  
 1. 黑褐色 7SYR3/1 粒子不規則 しまりなし 肥土 滅作土  
 2. 黄褐色 7SYR3/2 粒子規則 しまりなし 滅作土  
 3. にじいろ褐色 7SYR3/4 粒子規則 しまりなし ロームを4%含む  
 4. 黑褐色 7SYR3/3 粒子規則 しまりなし  
 5. 黄褐色 7SYR3/1 粒子規則 しまりなし 人頭大の脚を50%含む  
 6. にじいろ褐色 7SYR5/4 粒子規則 しまりなし

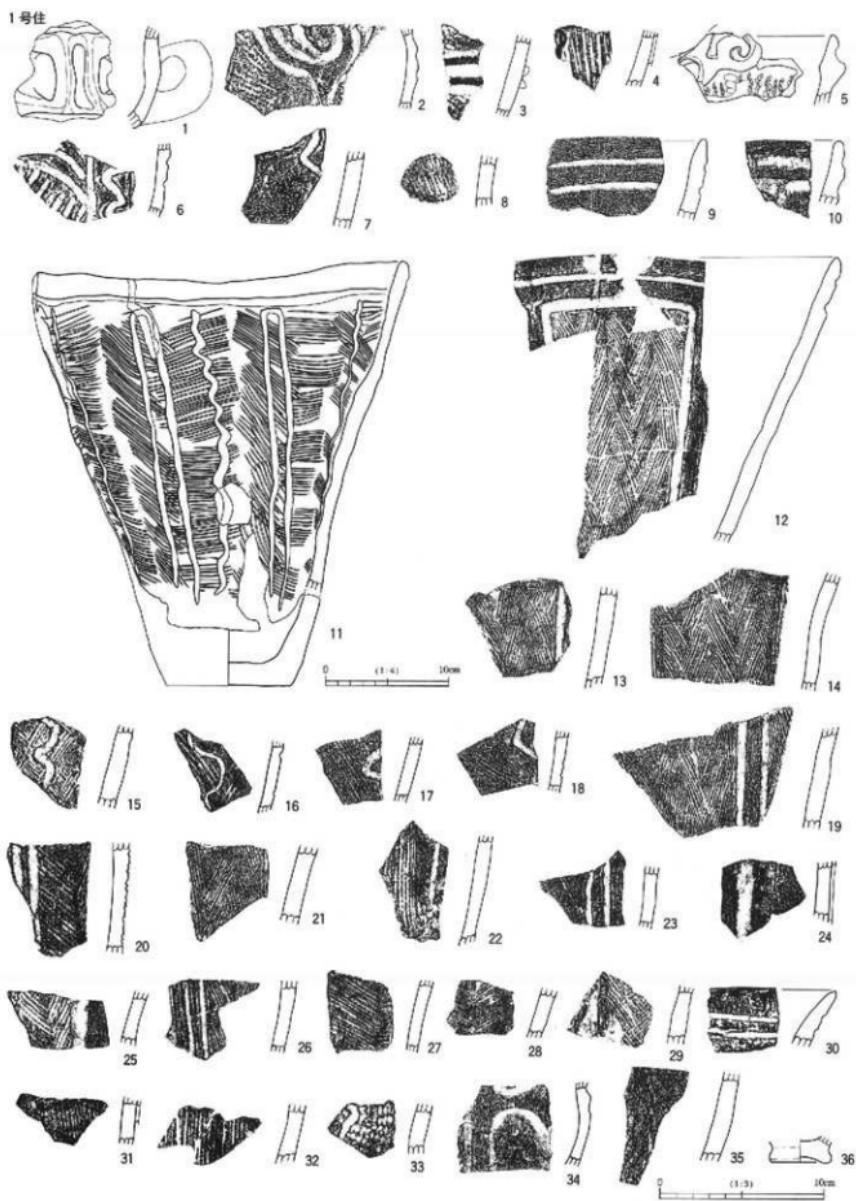
第5図 調査区土層断面図



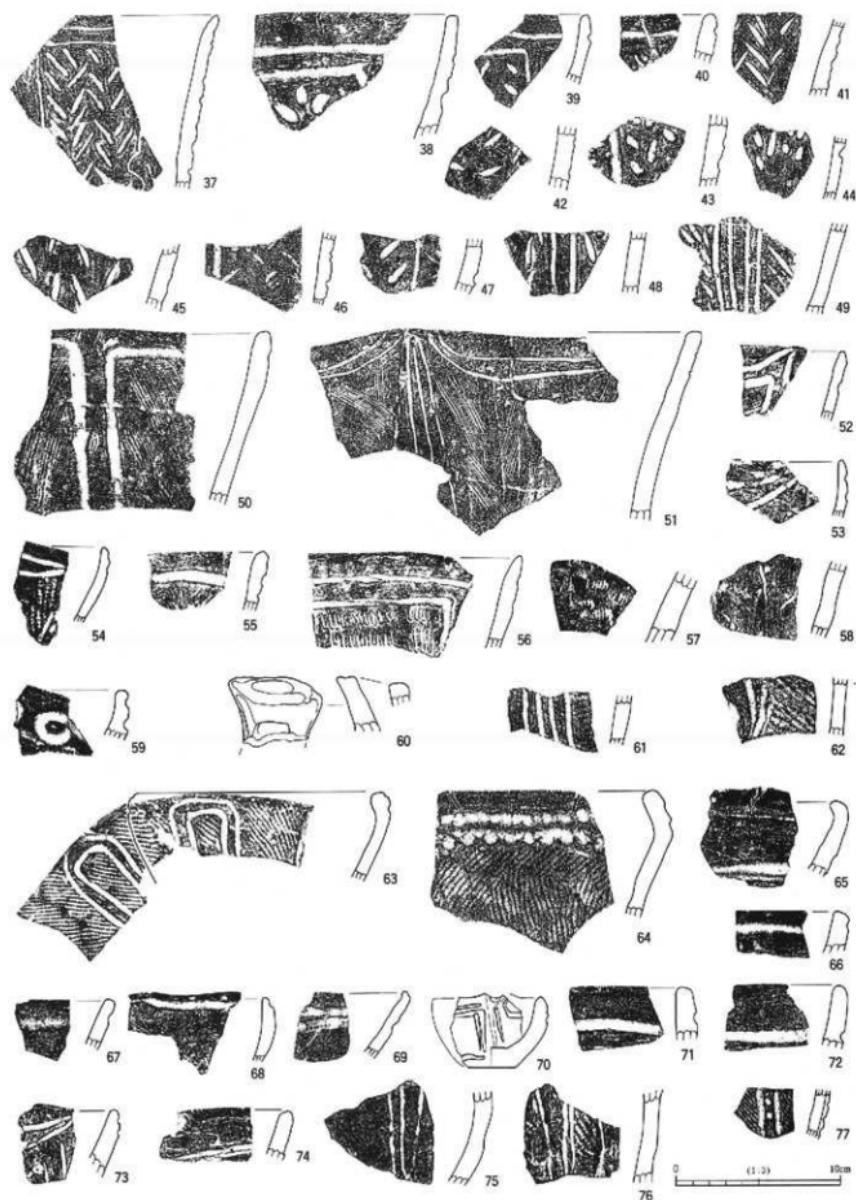
第7図 1号住居跡・8号土坑



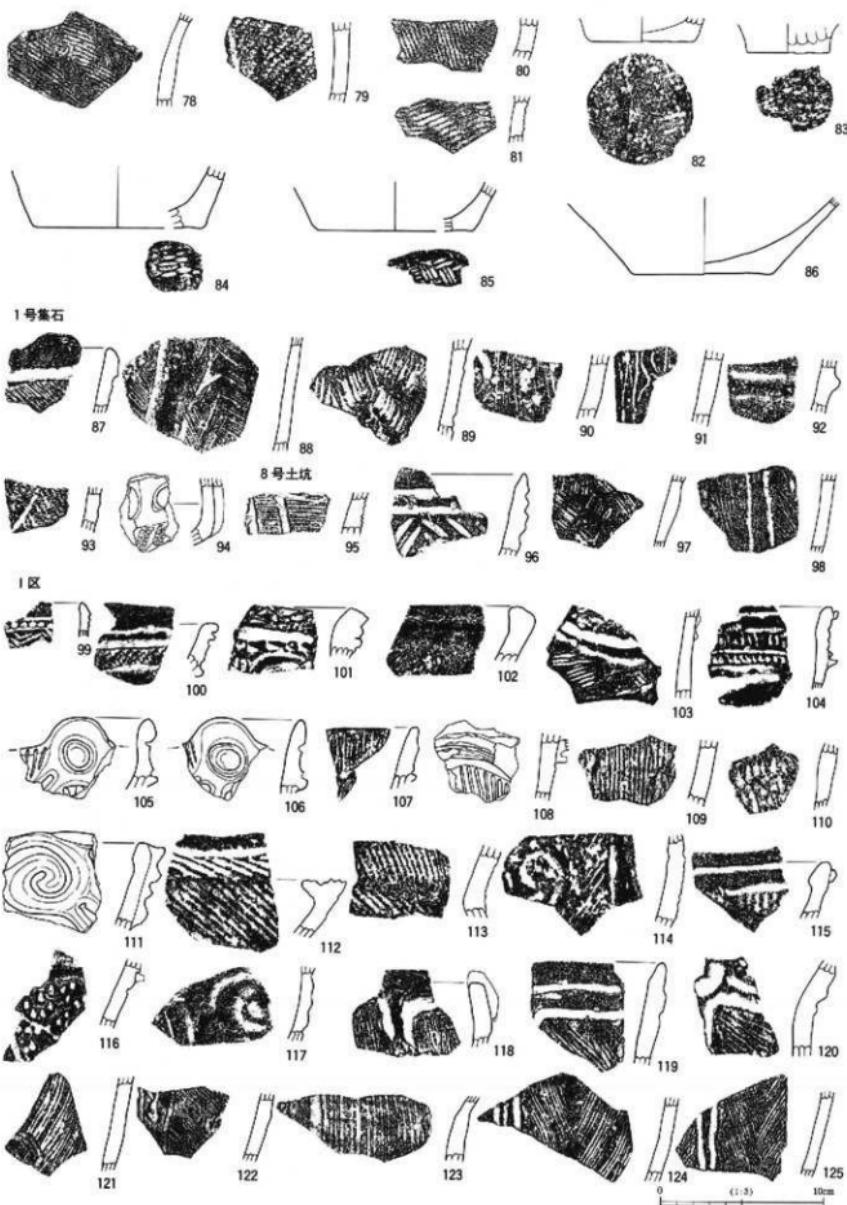
第8図 1~7号土坑



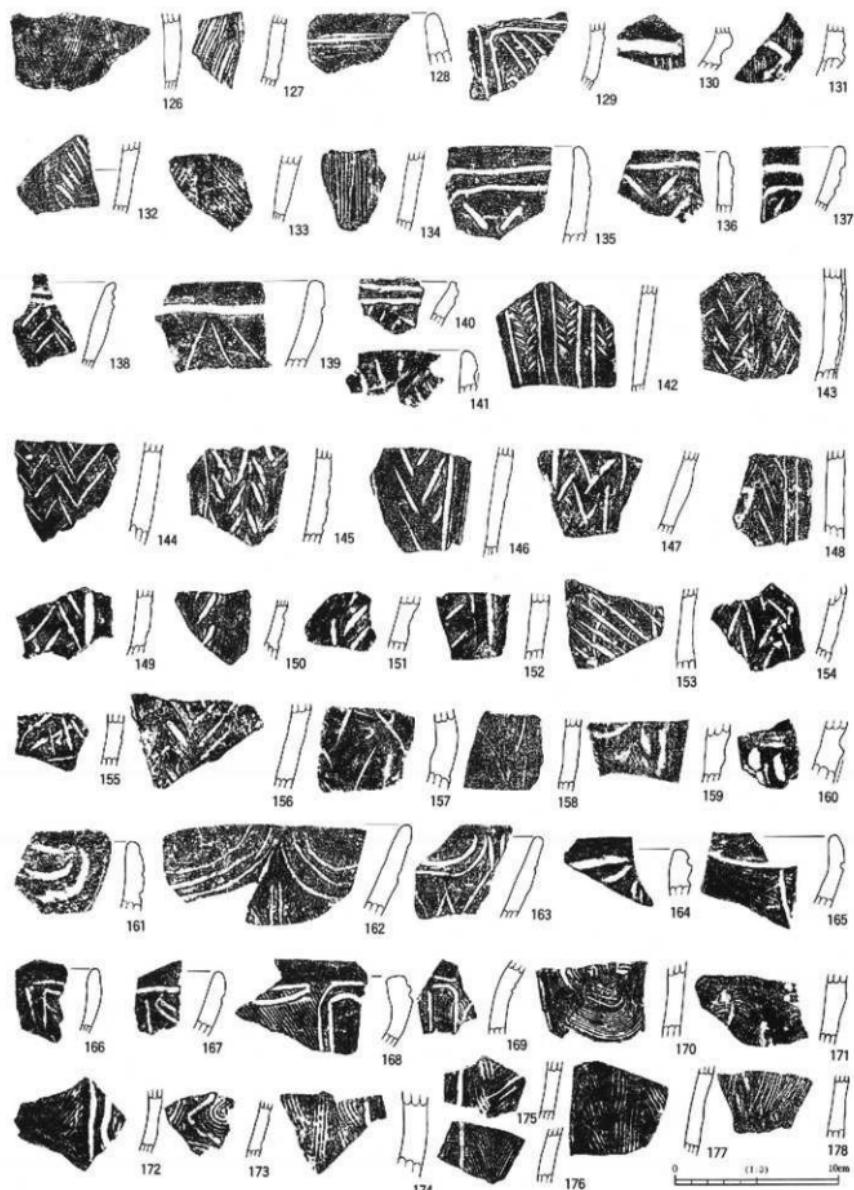
第9図 出土土器①



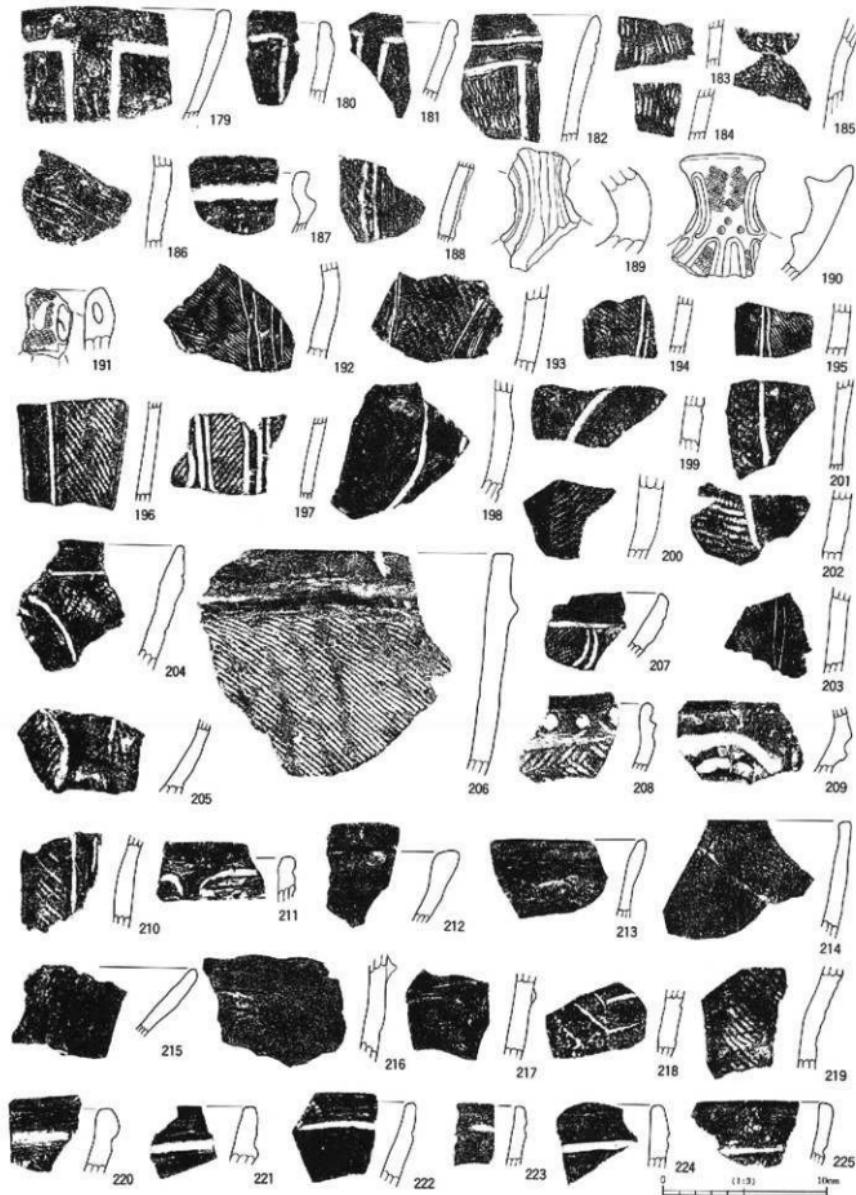
第10圖 出土上器②



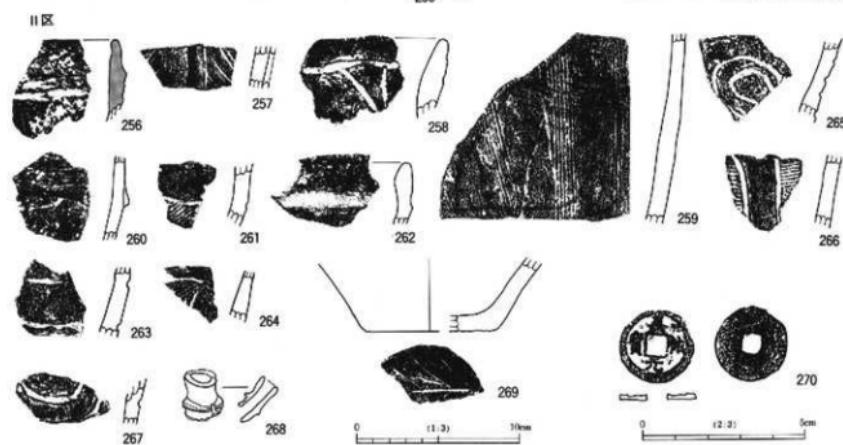
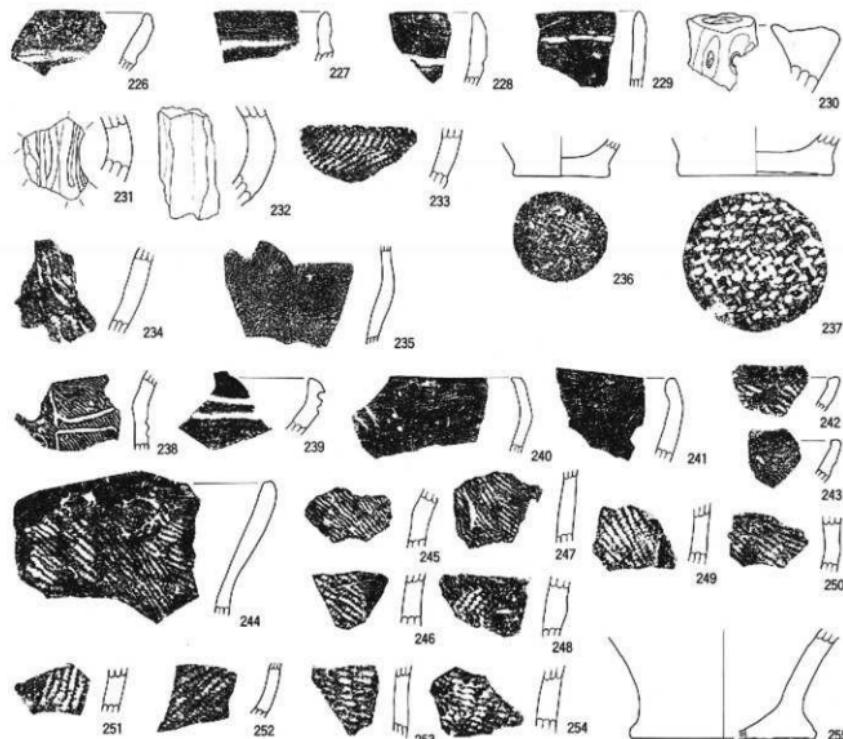
第11図 出土土器③



第12図 出土土器④



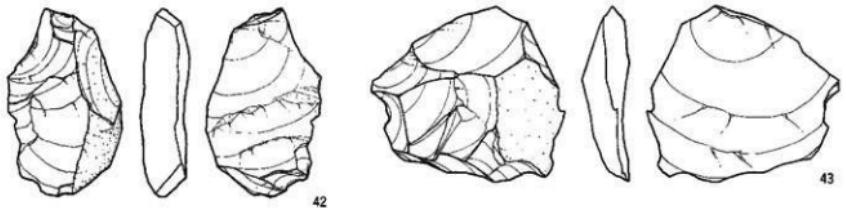
第13圖 出土土器⑤



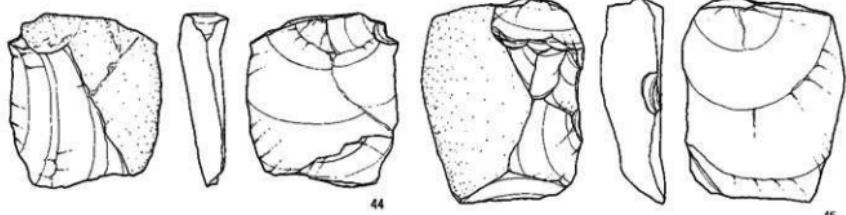
第14図 出土土器⑤



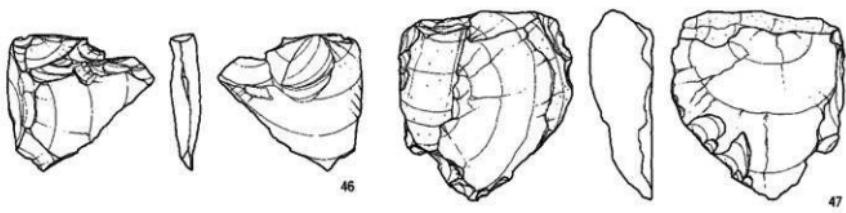
第15図 出土石器①



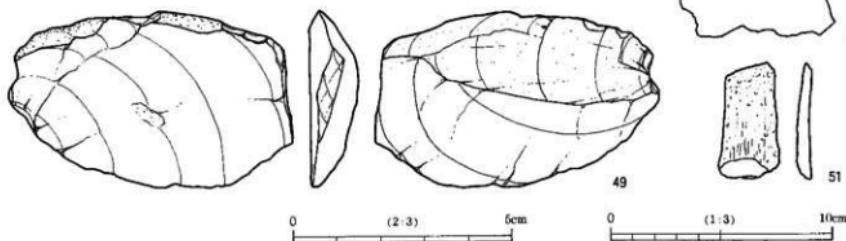
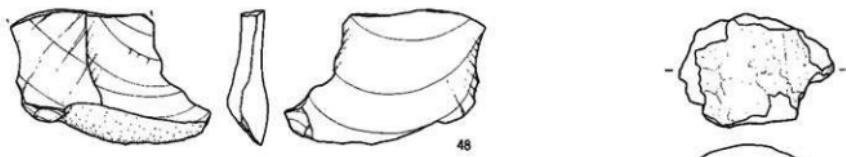
43



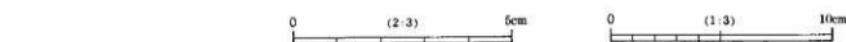
44



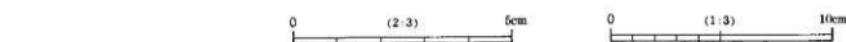
45



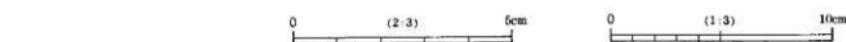
47



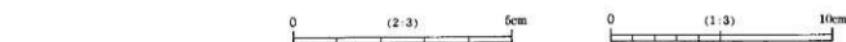
48



49



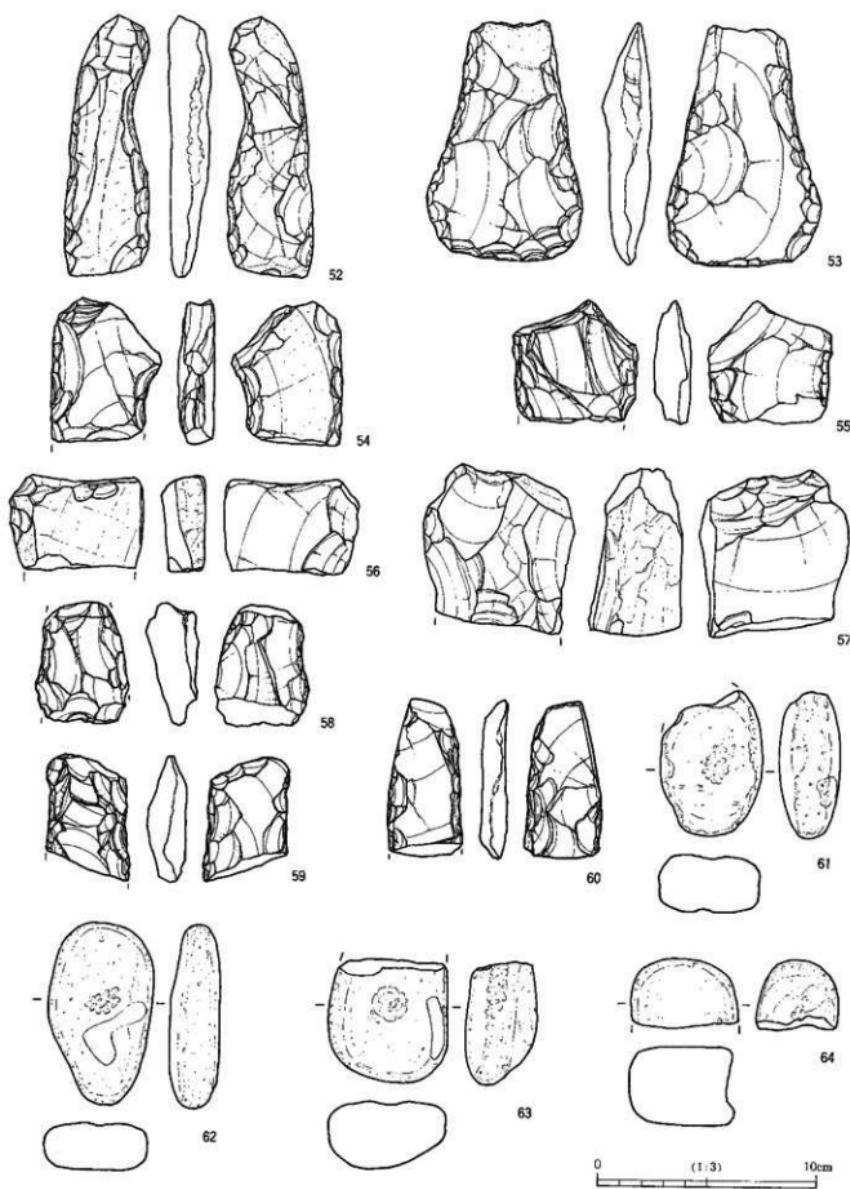
50



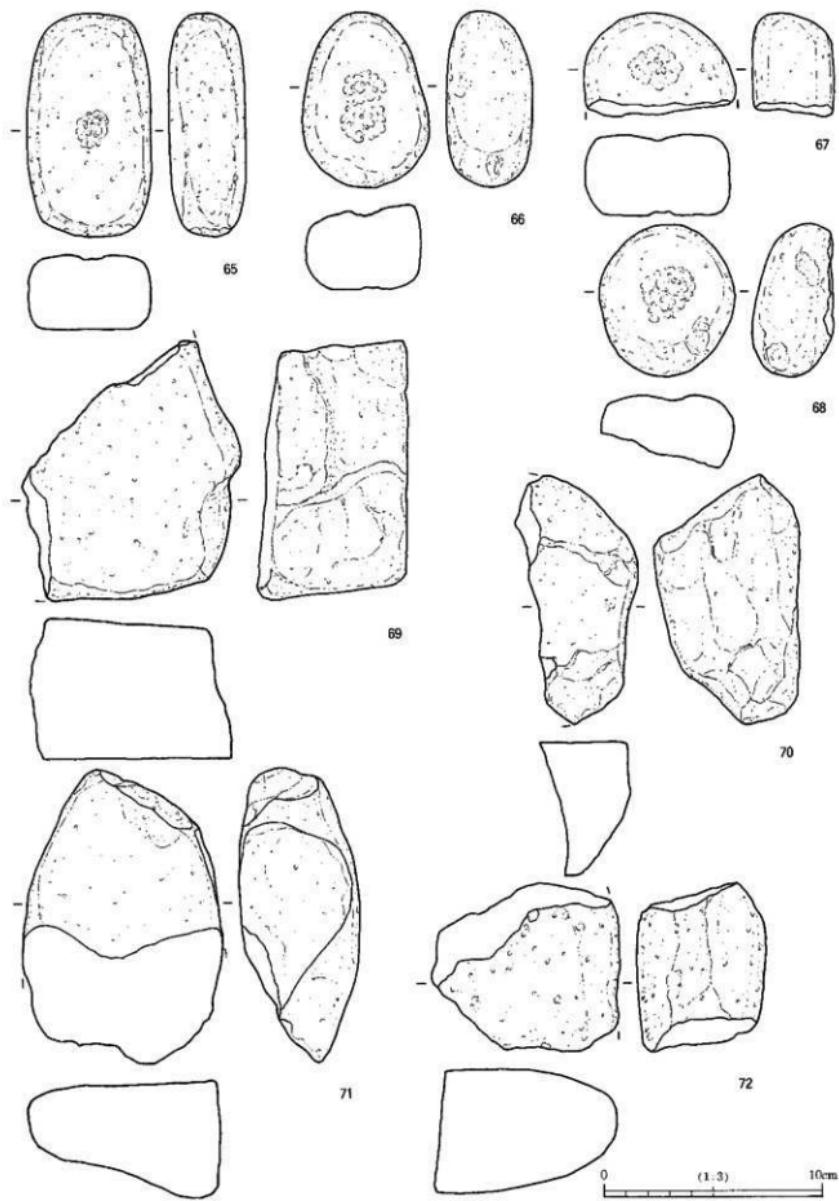
51



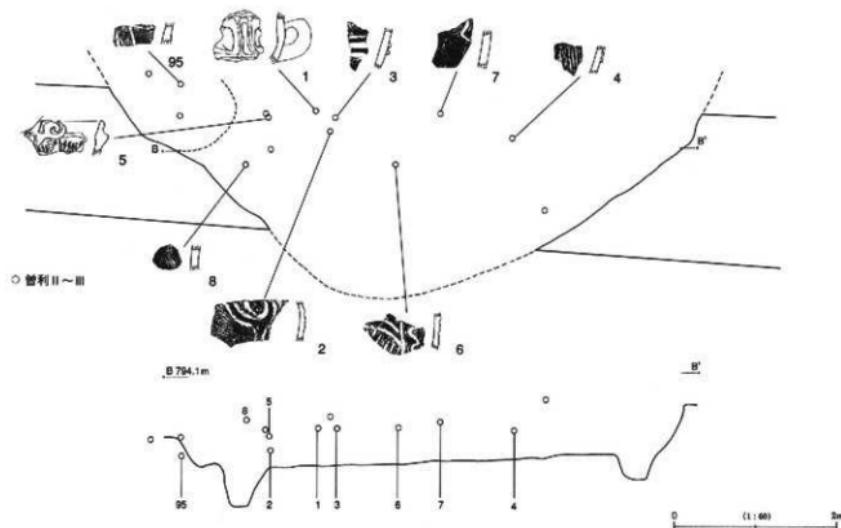
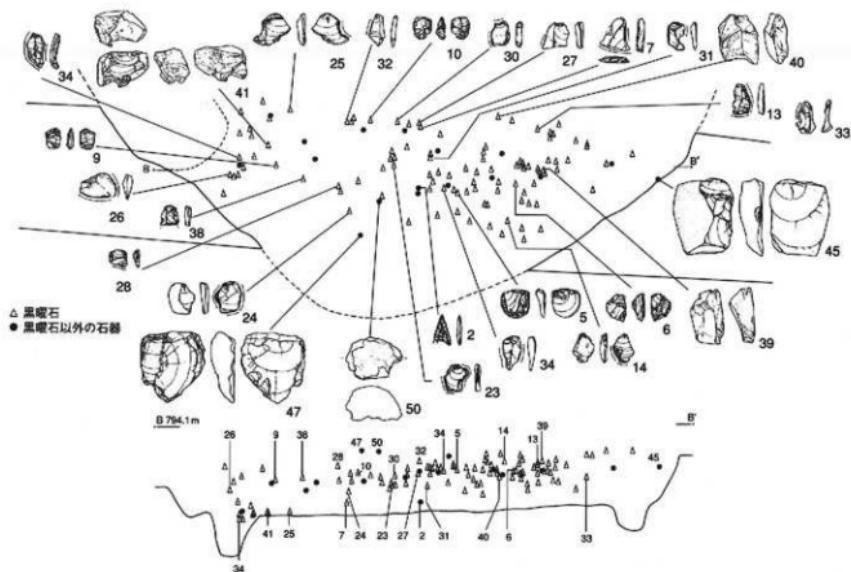
第16図 出土石器②



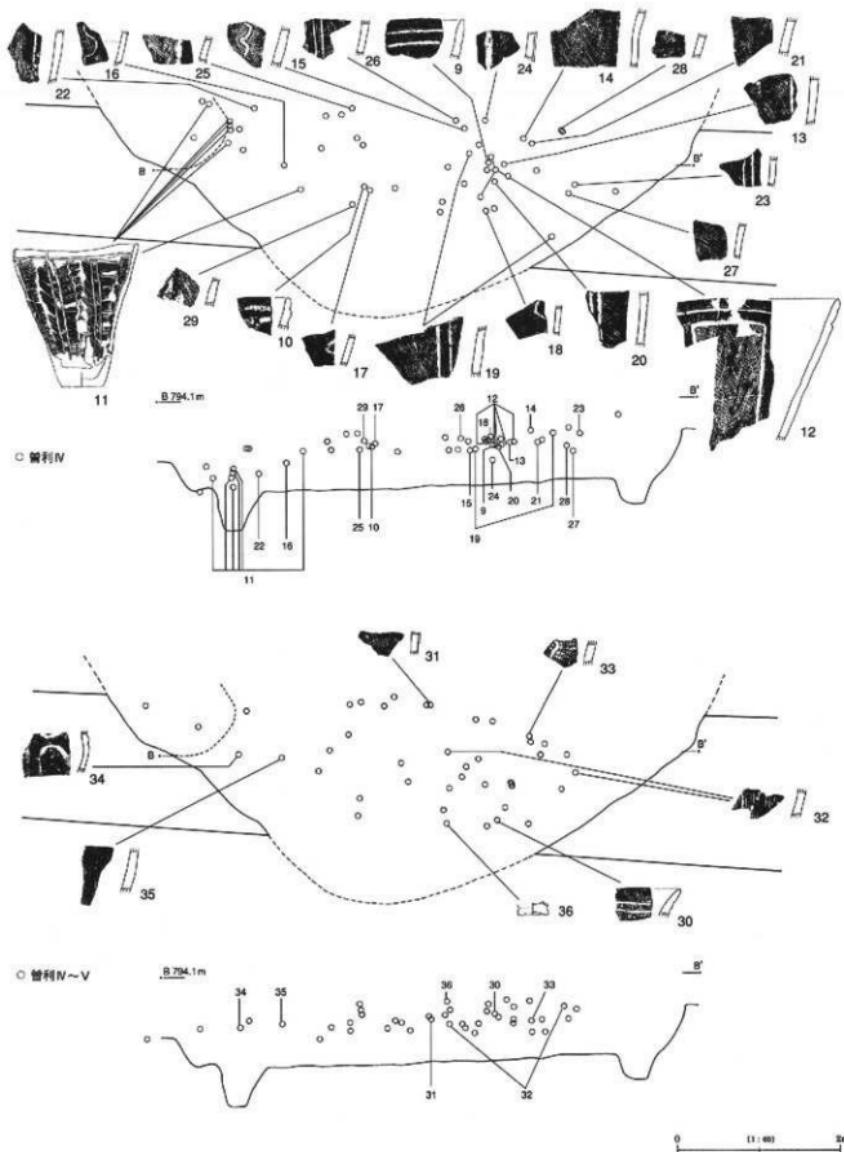
第17図 山土石器③



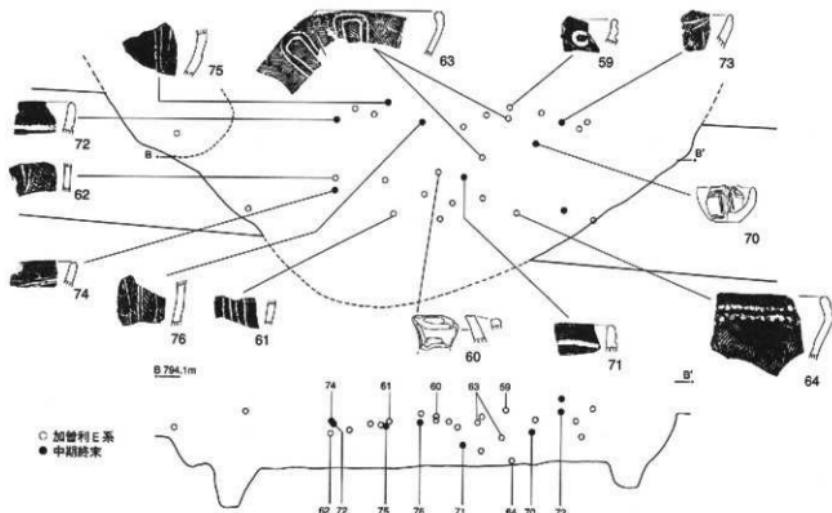
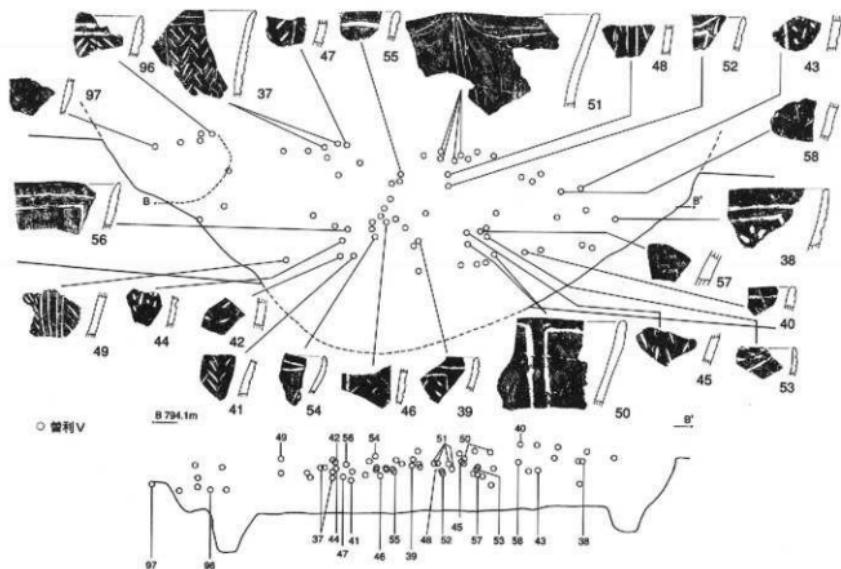
第18図 出土石器④



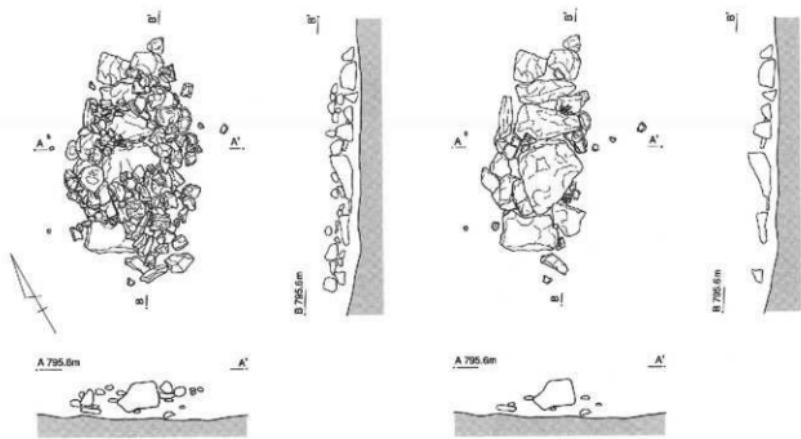
第19図 1号住居跡遺物出土状況①



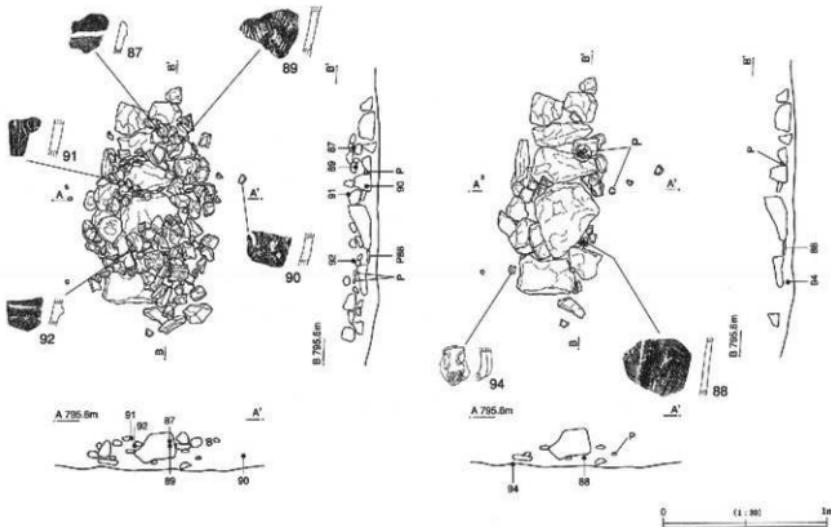
第20図 1号住居跡遺物出土状況②



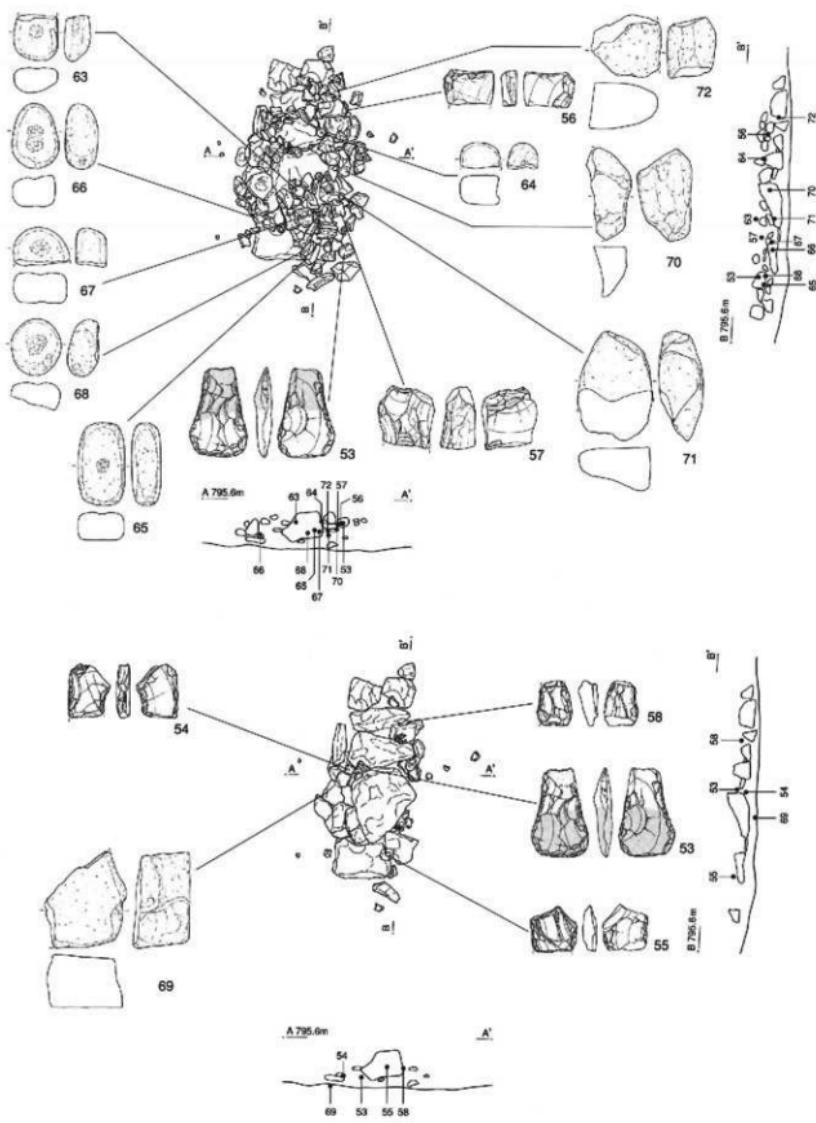
第21図 1号住居跡遺物出土状況③



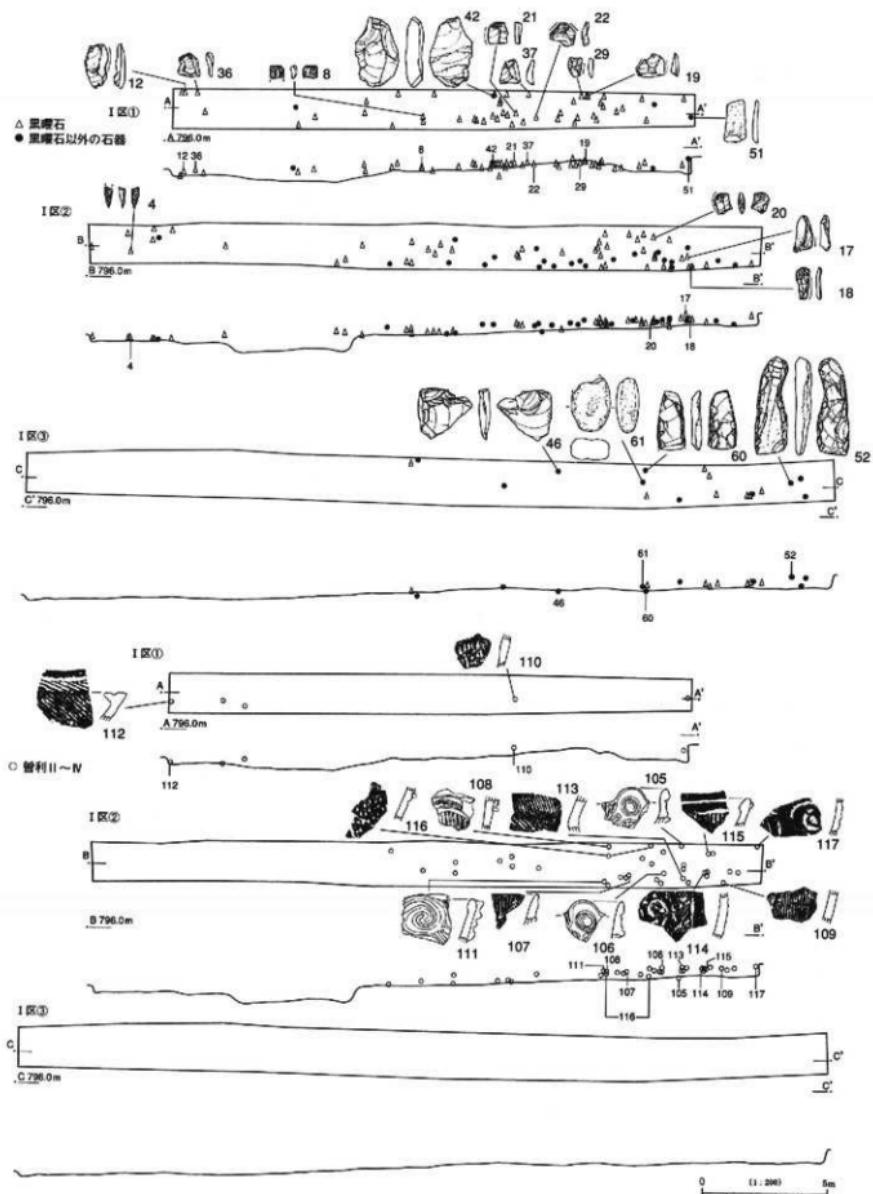
1号集石



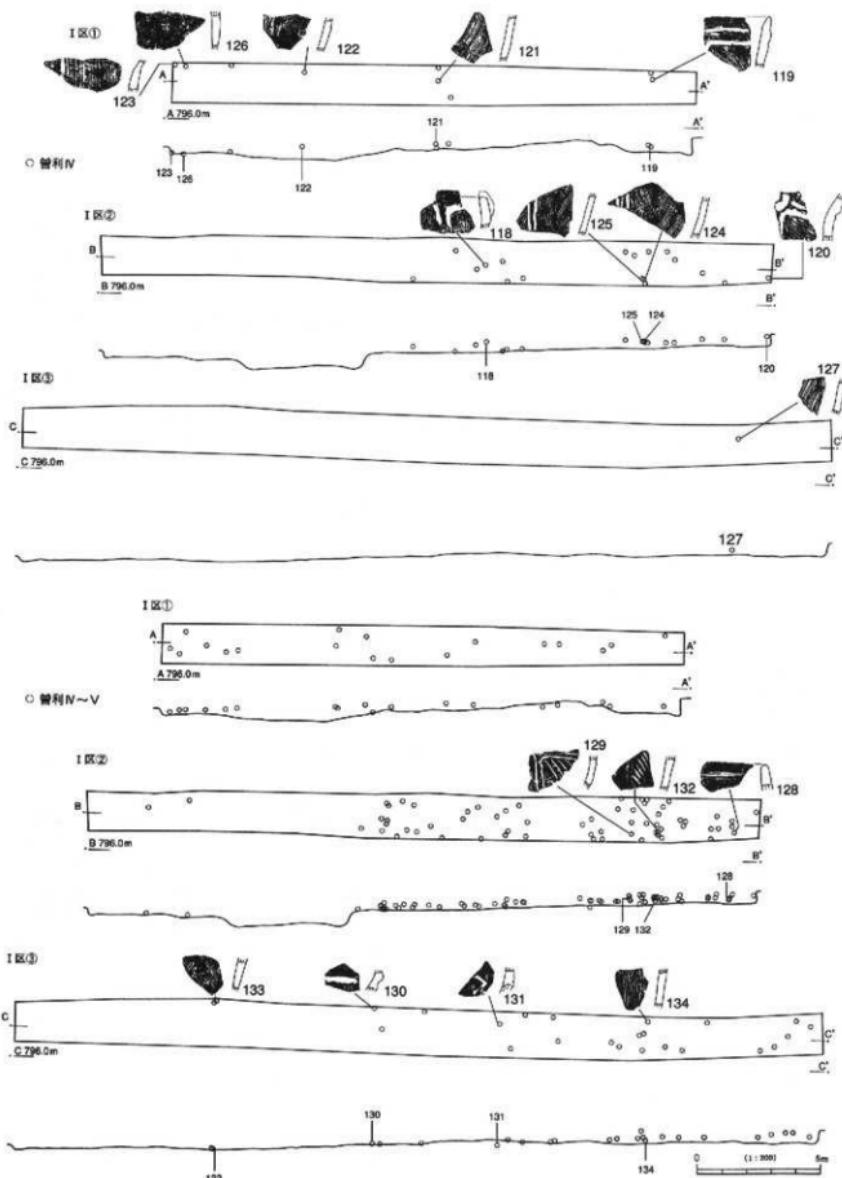
第22回 1号集石①



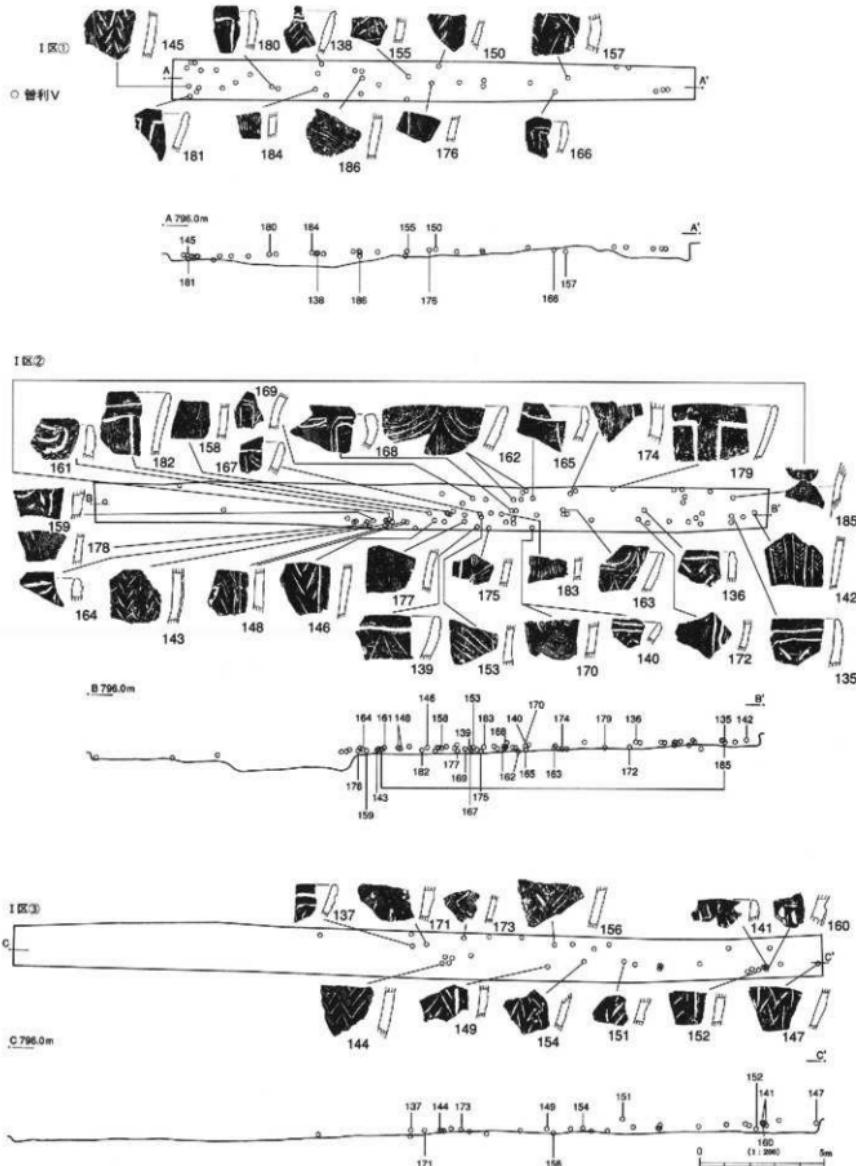
第23図 1号集石②



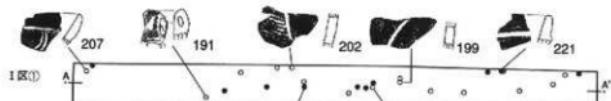
第24図 I区遺物出土状況①



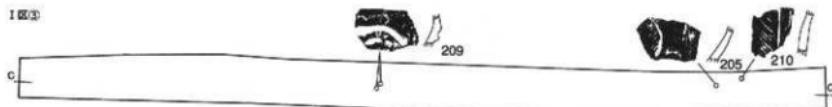
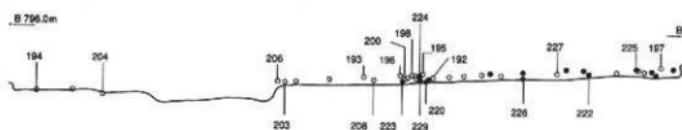
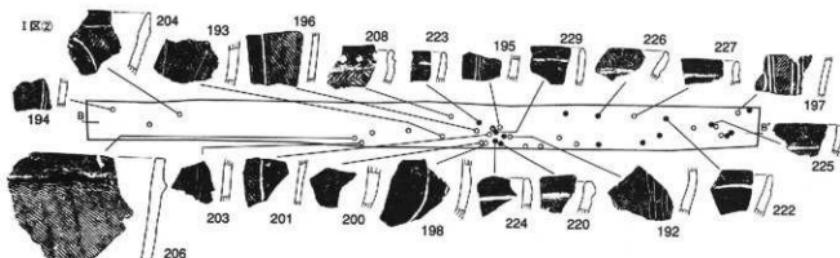
第25図 I区遺物出土状況②



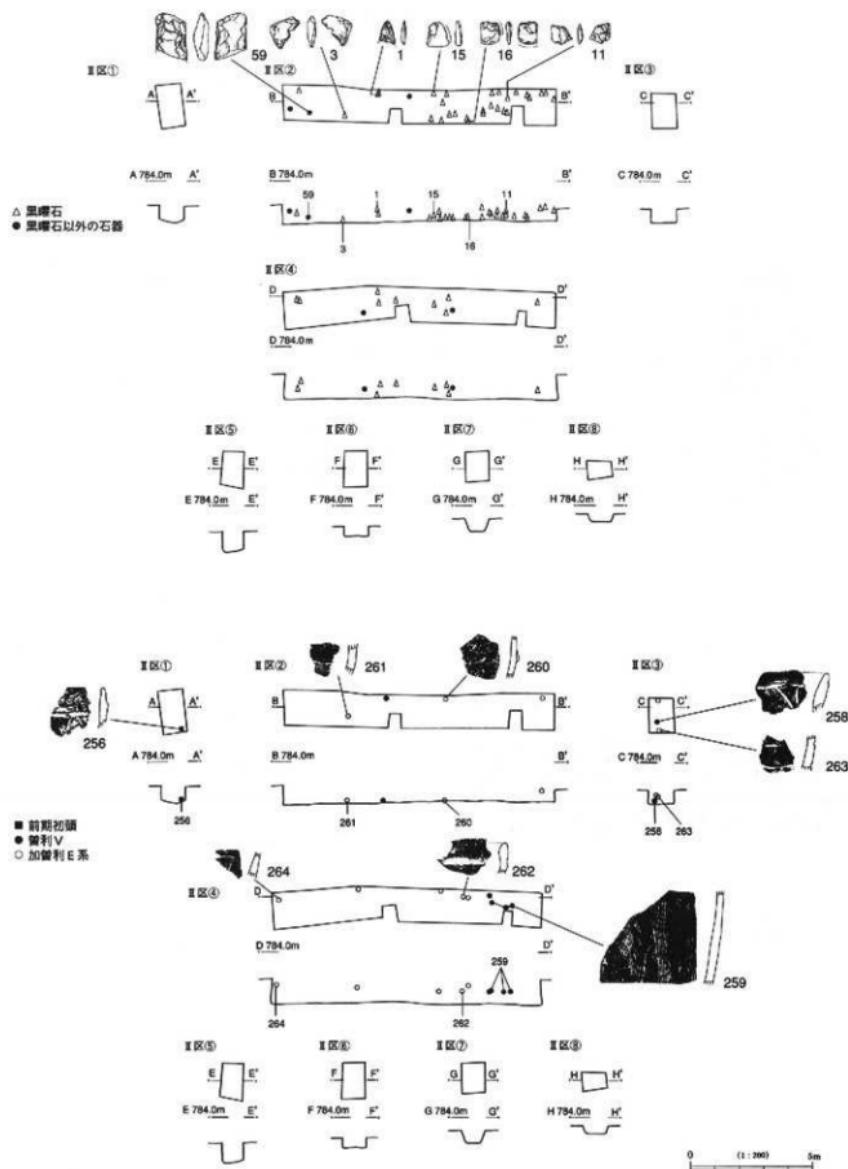
第26図 I区遺物出土状況③



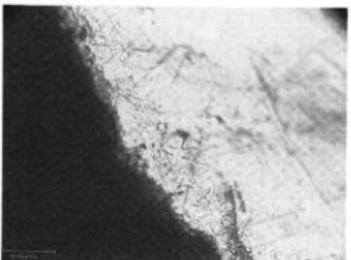
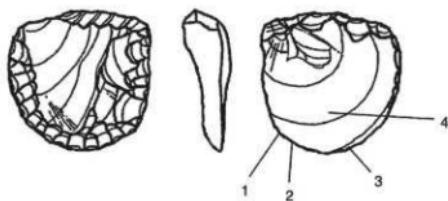
○ 加賀利 E 系  
● 中期終末



第27図 I区遺物出土状況④



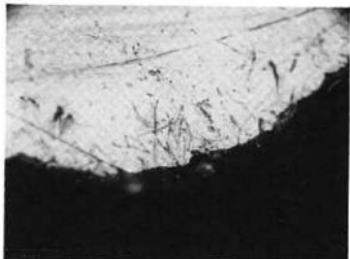
第28図 II区遺物出土状況



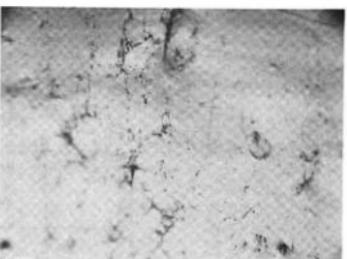
1 Eタイプ



2 Eタイプ



3 Eタイプ



4 使用痕なし

#### 観察所見

主要剥離面側に顕著な使用痕光沢と細かな線状痕が観察される（写真1～3）。背面側の縁辺部には微細剥離がともなっている。使用痕光沢タイプは、Eタイプである。推定される被加工物は、皮である。線状痕は、刃部にほぼ直交している（線状痕が非常に細いのが特徴である）。石器の使用法としては、搔き取りが考えられる。

第29図 搗器（第15図5）の使用痕

固版 番号	固 番号	器 種	石 材	整形加工	成形加工	素材技術	素材形態	所 見	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)
第15回	1	石鏡(凹面)	黒曜石	SP	なし	不明	小明		19.6	12.8	4.0	0.7
第15回	2	石鏡(凹面)	珪岩	SP	なし	不明	不明		24.4	14.0	4.1	0.8
第15回	3	石鏡	黒曜石	HP	なし	HD	縦長剥片		25.7	24.2	7.6	2.2
第15回	4	石鏡	黒曜石	HP	なし	不明	不明	基部欠損	16.9	6.2	5.4	0.3
第15回	5	接着	黒曜石	HPI	なし	HD	横長剥片	微細剥離面	23.6	23.7	8.1	2.9
第15回	6	二次加工剥片	黒曜石	なし	折取り	HvD	剥片		22.9	16.0	10.8	3.1
第15回	7	二次加工剥片	黒曜石	なし	折取り	HD	縱長剥片	右側辺と末端辺に微細剥離	27.1	25.3	6.4	3.3
第15回	8	多面石器1	黒曜石	なし	HvD	HD	剥片		10.9	12.0	5.3	0.6
第15回	9	多面石器1	黒曜石	なし	HvD		剥片		17.3	12.4	5.5	1.0
第15回	10	多面石器1	黒曜石	なし	HvD		剥片		18.2	15.8	8.1	1.6
第15回	11	多面石器1	黒曜石	なし	HvD		剥片		16.4	16.6	3.9	0.8
第15回	12	多面石器2	黒曜石	なし	HvD		剥片	右側辺に微細剥離	36.6	16.3	9.3	4.2
第15回	13	使用痕剥片	黒曜石	なし	HvD		縱長剥片	右側辺と末端辺に微細剥離	23.6	15.2	5.7	1.5
第15回	14	使用痕剥片	黒曜石	なし	HvD		縦長剥片	右側辺と末端辺に微細剥離	24.0	17.3	5.9	1.7
第15回	15	使用痕剥片	黒曜石	なし	HvD		縦長剥片	右側辺に微細剥離	20.5	18.4	5.6	1.4
第15回	16	使用痕剥片	黒曜石	なし	HvD		縦長剥片	右側辺と右側辺に微細剥離	18.5	15.8	4.8	0.9
第15回	17	使用痕剥片	黒曜石	なし	HID		縦長剥片	右側辺に微細剥離	29.9	16.0	8.5	2.4
第15回	18	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	横長剥片	右側辺に微細剥離		26.6	10.4	4.4	0.9
第15回	19	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	横長剥片	右側辺と左側辺に微細剥離	19.5	23.9	6.4	1.9	
第15回	20	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	左側辺に微細剥離、無然		17.3	14.8	5.5	1.1
第15回	21	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	左側辺に微細剥離		18.3	16.2	6.2	1.3
第15回	22	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	剥片	右側辺に微細剥離		19.6	20.9	6.1	1.6
第15回	23	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		22.2	20.5	4.7	1.5
第15回	24	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺と左側辺に微細剥離		25.8	21.6	7.0	2.8
第15回	25	使用痕剥片	黒曜石	なし	HID	縦長剥片	右側辺に微細剥離		25.8	30.5	7.7	3.2
第15回	26	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺と左側辺に微細剥離		20.4	29.9	7.7	3.4
第15回	27	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺と左側辺に微細剥離		21.6	22.1	6.5	2.0
第15回	28	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		14.9	17.7	5.3	1.0
第15回	29	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		16.5	11.4	4.3	0.6
第15回	30	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		20.8	15.3	5.7	1.5
第15回	31	使用痕剥片	黒曜石	なし	HID	縦長剥片	右側辺に微細剥離		23.0	13.6	5.2	1.0
第15回	32	使用痕剥片	出雲石	なし	HD	縦長剥片	左側辺に微細剥離		25.8	12.9	4.3	0.8
第15回	33	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺と左側辺に微細剥離		26.7	15.7	9.0	1.4
第15回	34	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		28.6	14.7	7.6	1.9
第15回	35	使用痕剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		27.6	15.2	6.8	1.9
第15回	36	剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		19.9	18.1	6.0	1.2
第15回	37	剥片	黒曜石	なし	HID	縦長剥片	右側辺に微細剥離		20.5	16.2	6.4	1.4
第15回	38	剥片	黒曜石	なし	HD	縦長剥片	右側辺に微細剥離		16.2	14.7	5.3	0.9
第15回	39	取石	黒曜石	なし	なし	角礫			45.2	27.1	20.5	20.1
第15回	40	取石	黒曜石	なし	なし	角礫			41.3	32.6	19.0	22.3
第15回	41	石核	黒曜石	なし	なし	角礫			28.9	42.6	28.2	31.5
第16回	42	剥片	真岩	なし	なし	HD	縦長剥片		57.7	35.6	15.3	26.1
第16回	43	剥片	カルナバレス	なし	なし	HD	剥片		53.7	58.9	14.9	36.4
第16回	44	剥片	真岩	なし	なし	HD	剥片		53.4	46.7	15.7	34.8
第16回	45	剥片	カルナバレス	なし	なし	HvD	縦長剥片		62.4	49.2	19.6	59.4
第16回	46	剥片	真岩	なし	なし	HvD	縦長剥片		41.9	44.6	9.7	13.9
第16回	47	剥片	真岩	なし	HvD	縦長剥片			57.0	52.1	19.6	57.9
第16回	48	剥片	真岩	なし	HvD	縦長剥片			40.9	59.8	12.4	20.2
第16回	49	剥片	砂岩	なし	なし	HD	横長剥片		54.1	87.2	15.3	74.3
第16回	50	石核	凝灰岩	不明	不明	不明	不明	無然、破損らしい	70.0	93.4	56.6	278.8
第16回	51	磨製石斧	絆石	研磨	敲打	不明	不明	無然	71.0	36.3	9.6	27.5
第17回	52	打製石斧	砂岩	HvD(後便)	HD	小明	横長剥片		160.2	53.2	26.5	238.5
第17回	53	打製石斧	砂岩	HvD(後便)	HD	不明	横長剥片		147.8	95.5	30.5	409.1
第17回	54	打製石斧	カルナバレス	HD	なし	不明	剥片	裏面無が風化による摩耗らしい	88.7	67.6	22.8	178.7
第17回	55	打製石斧	砂岩	HD	HD	不明	横長剥片		73.2	76.1	22.7	154.9
第17回	56	打製石斧	砂岩	HD	HD	不明	横長剥片	頂部断片	59.7	82.5	27.1	170.2
第17回	57	打製石斧	砂岩	HD	HD	不明	剥片	頂部断片	103.0	91.6	56.9	527.0
第17回	58	打製石斧	砂岩	HvD	HD	不端	横長剥片	基部、刃部欠損	74.9	57.9	31.4	136.4
第17回	59	打製石斧	砂岩	HD	HD	不明	横長剥片	刃部欠損	76.9	52.2	23.8	97.6
第17回	60	打製石斧	砂岩	HD	なし	HvD	横長剥片	刃部欠損	96.7	47.0	17.0	106.0
第17回	61	磨石+敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		90.3	63.2	37.6	310.0
第17回	62	敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		112.1	64.8	31.1	323.6
第17回	63	磨石+敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		73.9	74.7	43.9	382.5
第17回	64	磨石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		43.5	66.7	50.5	158.7
第17回	65	磨石+敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		137.2	76.9	47.9	789.0
第17回	66	磨石+敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		107.7	78.2	53.8	557.0
第17回	67	磨石+敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		64.0	93.9	50.8	376.1
第17回	68	磨石+敲石	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		93.8	83.7	50.8	414.0
第17回	69	石墨	安山岩	なし	なし	なし	角礫		158.8	133.9	93.4	2,520.0
第17回	70	石墨	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		152.4	75.2	89.9	942.0
第17回	71	石墨	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		180.5	124.0	74.0	2,100.0
第17回	72	石墨	安山岩	なし	なし	なし	精円磨		103.5	116.5	79.9	1,102.0

第3表 土器出土内訳

上段：個数、下段：重量(g)

大別時期	細別時期	型式	I 件	I 区	II 区	8号土坑	1号集石	ピット2	ピット4	合計
早期末～前期初頭					1	20.5				1
			289	678	32	28	31	3	4	20.5
中 期			6,178.7	13,002.2	702.0	455.5	585.4	45.5	36.4	1,065.7
前 半				13	2					15
		286.0	27.9							313.9
		五領ヶ台		2	2					4
			26.2	27.9						54.1
		猪 沢		1						1
後 半				36.9						36.9
		不 明		10						10
			222.9							222.9
		280	518	30	23	13	2	1		867
			5,907.2	9,746.6	674.1	321.7	282.0	21.4	5.0	16,958.0
曾 利			2	12	1					15
			21.0	271.2	39.4					331.6
				1						1
			19.0							19.0
		曾 利 II	4	2						6
			181.7	25.6						207.3
		曾 利 II～III	3	16						19
			34.4	354.5						406.9
		曾 利 III	4	5		3				12
			72.7	225.9		50.0				348.6
曾 利 III～IV			2	22						24
			64.2	414.1						478.6
			42	24		2	1			69
			1,074.3	605.6		43.5	22.7			1,746.1
		曾 利 IV～V	51	125		5				161
			548.7	1,370.9		65.9				1,985.5
		曾 利 V	66	159		5	7	6		243
			1,806.9	3,213.4	199.6	116.9	175.4			5,514.2
		加曾利 E	1	2	3		2			8
			9.8	97.7	42.4		34.2			184.1
加曾利 E 1～2			1							1
			30.7							20.7
		加曾利 E 3～4	12	31	4	1				48
			244.3	885.9	64.2	7.2				1,171.6
		加曾利 E 4	7	14	1					22
不 明			342.8	730.7	32.0					1,105.5
			85	105	16	5	4	2	2	219
			1,463.7	1,561.8	296.5	38.2	49.7	21.4	14.6	3,446.9
終 末			7	24		1				32
			219.9	466.6		26.1				712.6
		不 明	2	123		4	18	1	3	151
後 期			51.6	2,503.0		107.7	304.4	24.1	31.4	3,022.2
			1	9						10
			10.7	199.6						210.3
	初 頭	称名寺	1	5						6
			10.7	67.9						78.6
後 半			2							2
				26.1						26.1
		不 明		2						2
不 明			105.6							105.6
			177	569	67	8				821
			2,056.9	6,765.3	625.3	84.5				9,532.0
小 計			467	1,256	100	36	31	3	5	1,898
			8,246.3	19,967.1	1,347.8	540.0	586.4	45.5	36.4	30,769.5
平 安					6					6
					13.9					13.9
					2					2
					10.5					10.5
					2					2
近 世					18.0					18.0
					1					1
					32.4					32.4
現 代					11					11
					74.8					74.8
総 合 計			467	1,256	111	36	31	3	5	1,909
			8,246.3	19,967.1	1,422.6	540.0	586.4	45.5	36.4	30,844.3

第4表 石器出土内訳

上段：個数、下段：重量(g)

器種	I 件	I 区	II 区	8号土坑	1号集石	合計
石 鑿	1		1			2
	0.8		0.7			1.5
石 錐		1	1			2
		0.3	2.2			2.5
搔 器	1					1
	2.9					2.9
両 柄 石 器 1	2	1	1			4
	2.6	0.6	0.8			4.0
両 柄 石 器 2		2				2
		8.1				8.1
二次加工剥片	2					2
	6.4					6.4
使 用 痕 刺 片	15	7	2			24
	31.3	9.8	2.3			43.4
磨 製 石 斧		1				1
		27.5				27.5
打 製 石 斧		4	1		6	11
		519.1	97.6		1,576.3	2,193.0
磨 石	1				4	5
	252.4				1,354.6	1,607.0
敲 石	2	4			5	11
	985.6	972.9			1,654.4	3,612.9
磨 石 + 敲 石	2	1			5	8
	632.4	310.0			2,518.6	3,461.0
石 盆					4	4
					4,396.0	4,396.0
石 柄	1					1
	278.8					278.8
石 核	1					1
	31.5					31.5
原 石	2					2
	42.4					42.4
黒 曜 石 片	100	85	34	2		221
	102.9	122.1	59.1	3.0		287.1
チャート片		1				1
		7.0				7.0
珠 貨 岩 片		2				2
		10.3				10.3
その他の石材片	9	12	2	1		24
	369.6	314.0	102.4	74.9		860.9
合 計		139	121	42	3	24
		2,739.6	2,301.7	265.1	77.9	11,499.9
						16,884.2



調査区全景（南から）



I 区①作業風景



I 区②作業風景

図版 2



II区全景（真上から）



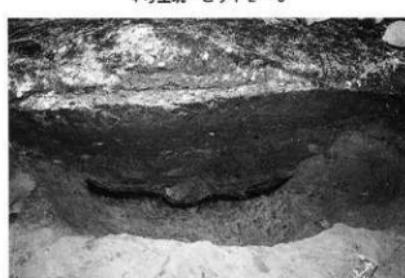
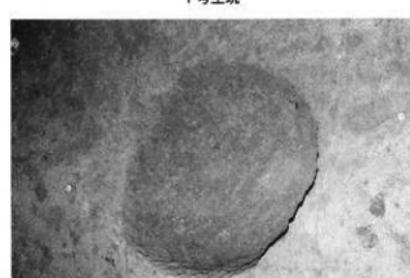
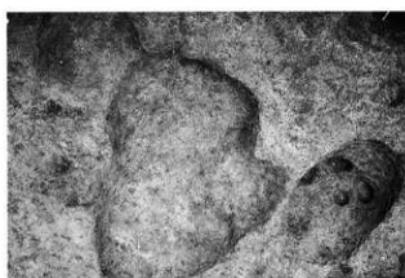
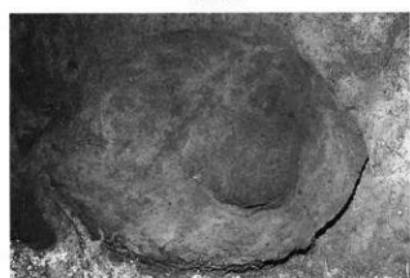
II区作業風景



1号住遺物出土状況



1号住居跡



図版 4



1号住居出土土器①



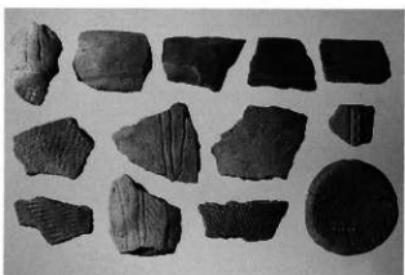
1号住居出土土器②



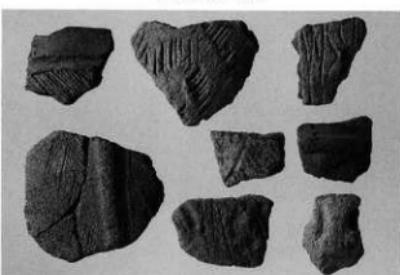
1号住居出土土器③



1号住居出土土器④



1号住居出土土器⑤



1号集石出土土器



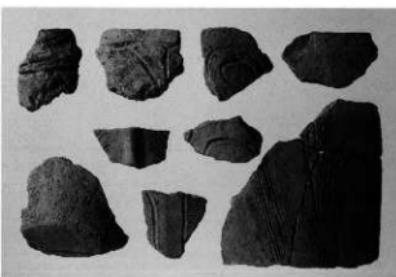
8号土坑出土土器



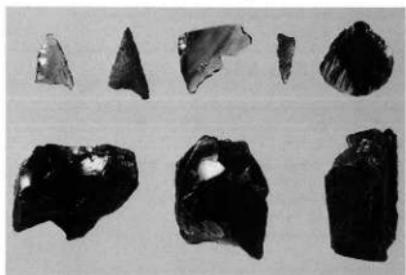
I区出土土器①



I区出土土器②



II区出土土器



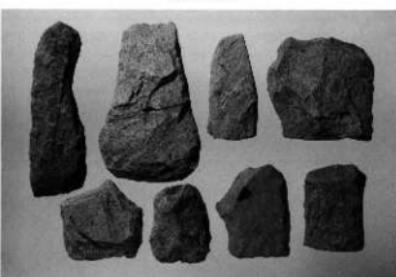
小形石器①



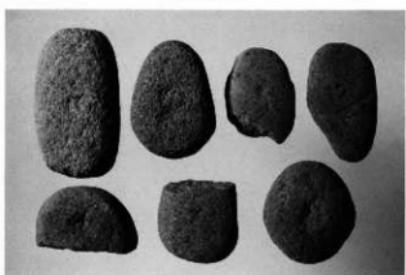
小形石器②



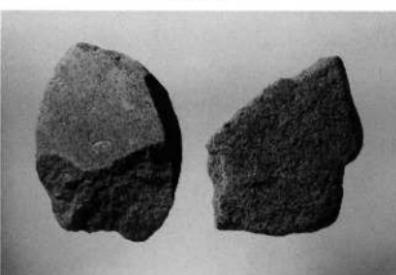
剥片石器他



打製石斧



磨石・敲石



石皿

## 報告書抄録

フリガナ	ヒガシカバライセキ
書名	東燕4遺跡
副題	中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第24集
著者名	小宮山隆、池谷勝典（株式会社アルカ）
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
発行日	2002年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町中丸字東燕
遺跡番号	長坂町 No078
1/25,000地図名 位置・標高	長坂上条 北緯 35° 49' 56" 東経 138° 20' 10" 標高 I区: 793m, II区: 780m
調査原因	中山間地域総合整備事業（八ヶ岳西部2期地図）
調査期間	2000年8月22日～2000年12月13日
調査面積	175m <sup>2</sup>
主な時代	縄文時代
主な遺構	I区 縄文時代（中期の竪穴住居跡1軒、土坑8基、ピット5基、集石遺構1基）
主な遺物	I区 縄文時代（土器、石器） 中世（古錢） II区 縄文時代（土器、石器）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集

## 東 燕 4 遺 跡

2002年3月25日 印刷

2002年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会

〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19

TEL 0551-32-2111

印 刷 鬼灯書翰株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

TEL 026-244-0235 (代)

